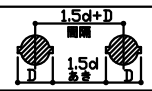
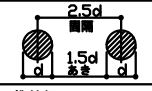
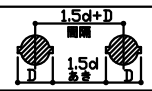
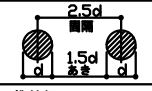
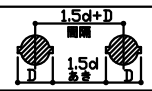
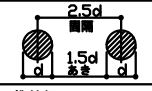
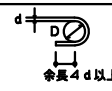
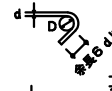

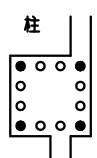
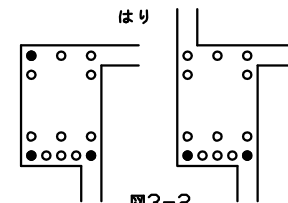
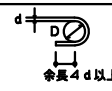
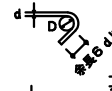

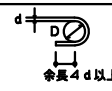
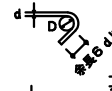



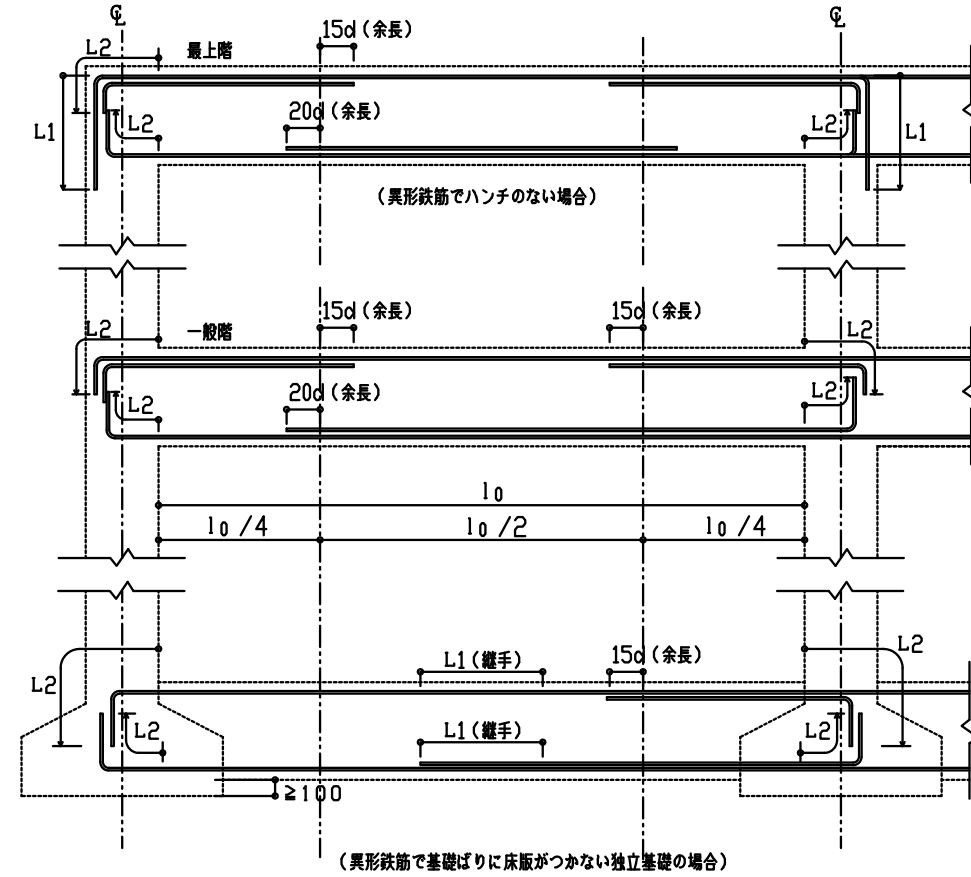
付1. 標準配筋要領

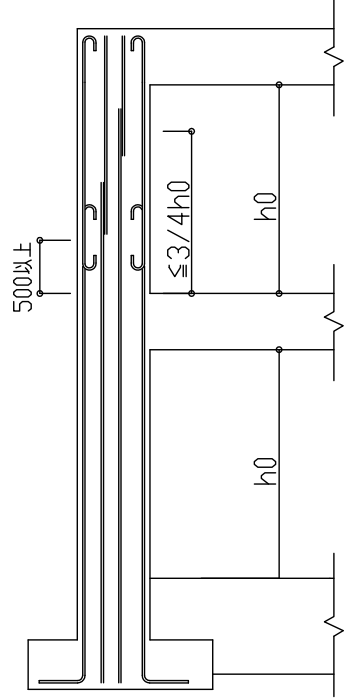
以下の図等は、標準的な鉄筋の加工、配筋要領及びコンクリートのかぶり等を示したものである。

(1) 共通事項

部位	共通事項															
	使用材料、標準配筋要領共通事項															
配筋詳細	<p>a. 使用材料は以下の通りとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材料</th> <th>設計基準強度 又は品質</th> <th>部 位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">コンクリート</td> <td>f_c21N/mm^2</td> <td>全 階</td> </tr> <tr> <td>f_c24N/mm^2</td> <td>全 階</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">鉄 筋</td> <td>SD295A</td> <td>D10 , D13 , D16</td> </tr> <tr> <td>SD345</td> <td>D19 , D22</td> </tr> </tbody> </table>	材料	設計基準強度 又は品質	部 位	コンクリート	f_c21N/mm^2	全 階	f_c24N/mm^2	全 階	鉄 筋	SD295A	D10 , D13 , D16	SD345	D19 , D22		
	材料	設計基準強度 又は品質	部 位													
	コンクリート	f_c21N/mm^2	全 階													
		f_c24N/mm^2	全 階													
	鉄 筋	SD295A	D10 , D13 , D16													
		SD345	D19 , D22													
標準配筋要領 共通事項																
① 鉄筋径と鉄筋のあき																
<p>a. 鉄筋相互のあきは、以下の値のうち最大のもの以上とする。</p> <p>(1) 組骨材の最大寸法の1.25倍</p> <p>(2) 25mm</p> <p>(3) 丸鋼の径及び異形鉄筋の径(呼び名の数値)の1.5倍とし、表1-1による</p> <p>表1-1 鉄筋相互のあき及び間隔</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>異形鉄筋</th> <th>間隔</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>$1.5d+D$</td> </tr> <tr> <td></td> <td>$2.5d$</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) D: 鉄筋の最外径 d: 鉄筋径</p>	異形鉄筋	間隔		$1.5d+D$		$2.5d$										
異形鉄筋	間隔															
	$1.5d+D$															
	$2.5d$															
② 加工形状																
<p>a. 鉄筋の折曲げ形状とその寸法は表2-1による。</p> <p>表2-1 柱、梁、基礎の主筋の折曲げ形状とその寸法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>折曲げ角度</th> <th>図</th> <th>鉄筋の種類</th> <th>鉄筋の径による区分</th> <th>鉄筋の折曲げ内法直径(D)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">180° 135° 90°</td> <td></td> <td rowspan="2">SD295A SD345</td> <td rowspan="2">D16以下</td> <td rowspan="2">最小3d以上</td> </tr> <tr> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>D19~D22</td> <td>最小4d以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) (1) dは、異形鉄筋の呼び名に用いた数値とする。 (2) キャップタイ、副あばら筋に90°フックを用いる場合は、余長は8d以上とする。 (3) 片持ちスラブの上端筋の先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。</p> <p>b. 異形鉄筋の末端部には、下記の場合にフックをつける。</p> <p>(1) 柱の四隅にある主筋(図3-1の●印)で、重ね継手及び最上階の柱頭にある場合</p> <p>(2) はり主筋の重ね継手が、はりの出隅及び下端の面端(図3-2の●印)にある場合 ただし、基礎はりを除く</p> <p>(3) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  図3-1 </div> <div style="text-align: center;">  図3-2 </div> </div>	折曲げ角度	図	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法直径(D)	180° 135° 90°		SD295A SD345	D16以下	最小3d以上					D19~D22	最小4d以上
折曲げ角度	図	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法直径(D)												
180° 135° 90°		SD295A SD345	D16以下	最小3d以上												
																
			D19~D22	最小4d以上												

部位	共通事項																																									
	標準配筋要領共通事項																																									
配筋詳細	<p>④ 定着長さ及び継ぎ手長さ</p> <p>a. 鉄筋の定着長さ及び継ぎ手長さは表4-1による。</p> <p>表4-1 鉄筋の定着長さ及び継ぎ手長さ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">鉄筋の種別</th> <th rowspan="3">設計基準強度</th> <th colspan="4">フックなし</th> <th colspan="4">フックあり</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">L1</th> <th rowspan="2">L2</th> <th colspan="2">L3</th> <th rowspan="2">L1</th> <th rowspan="2">L2</th> <th colspan="2">L3</th> </tr> <tr> <th>小はり</th> <th>床版</th> <th>小はり</th> <th>床版</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SD295A</td> <td>$f_c 21N/mm^2$</td> <td rowspan="2">40d</td> <td rowspan="2">35d</td> <td rowspan="2">25d</td> <td>10d</td> <td rowspan="2">30d</td> <td rowspan="2">25d</td> <td rowspan="2">15d</td> <td rowspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>SD345</td> <td>$f_c 24N/mm^2$</td> <td>かつ150以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. L1: 継手並びに下記2.及び3.以外の定着長さ 2. L2: 真形鉄筋で、衝撃破壊の恐れのない箇所の定着長さ 3. L3: 小はり及び床版の下端筋の定着長さ ただし、基礎部圧版、これを受ける小はりなどは除く 4. フックのある部分のL1、L2及びL3には、フック部分の長さは含まない</p> <p>・ 鉄筋の継手の位置及び長さは以下による。ただし、床版及び壁の場合は除く。</p> <table border="1"> <tr> <td>フックのある場合</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>フックのない場合</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 梁主筋は、柱中心を越えてから折り曲げること。 ・ 小はり筋の定着 	鉄筋の種別	設計基準強度	フックなし				フックあり				L1	L2	L3		L1	L2	L3		小はり	床版	小はり	床版	SD295A	$f_c 21N/mm^2$	40d	35d	25d	10d	30d	25d	15d	—	SD345	$f_c 24N/mm^2$	かつ150以上	フックのある場合			フックのない場合		
	鉄筋の種別			設計基準強度	フックなし				フックあり																																	
L1					L2	L3		L1	L2	L3																																
		小はり	床版			小はり	床版																																			
SD295A	$f_c 21N/mm^2$	40d	35d	25d	10d	30d	25d	15d	—																																	
SD345	$f_c 24N/mm^2$				かつ150以上																																					
フックのある場合																																										
フックのない場合																																										

部位	共通事項
配筋詳細	大梁筋の継手及び定着
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大梁筋の継手及び定着 <ul style="list-style-type: none"> (1) 継手及び圧接中心位置は、下記による。 <ul style="list-style-type: none"> 上端筋 - 中央 $l_0/2$ 以内 下端筋 - 両端 $l_0/4$ 以内 (2) 継手長さは $L1$ とし、定着長さは $L1, L2$ とし、余長は、$15d$ 又は $20d$ とする。  <p>The diagram illustrates three scenarios for beam reinforcement:</p> <ul style="list-style-type: none"> 最上階 (Top Floor): Shows top and bottom reinforcement bars. Top bars are spliced at the center with a length of $15d$ (余長). Bottom bars are spliced at the ends with a length of $20d$ (余長). Splicing lengths are $L1$ and $L2$. 一般階 (General Floor): Shows top and bottom reinforcement bars. Top bars are spliced at the center with a length of $15d$ (余長). Bottom bars are spliced at the ends with a length of $20d$ (余長). Splicing lengths are $L1$ and $L2$. Dimensions $l_0/4$, $l_0/2$, and l_0 are indicated. 異形鉄筋で基礎ばりに床版がつかない独立基礎の場合 (Independent foundation with irregular reinforcement where the slab does not rest on the foundation): Shows top and bottom reinforcement bars. Top bars are spliced at the center with a length of $15d$ (余長). Bottom bars are spliced at the ends with a length of $20d$ (余長). Splicing lengths are $L1$ and $L2$. A dimension of ≥ 100 is shown.

<p>部位</p>	<p>共通事項</p>
<p>配筋詳細</p>	<p>柱筋の継手</p> <p>・ 柱筋の継手は、以下による。</p> 

(2) 柱断面リスト

柱

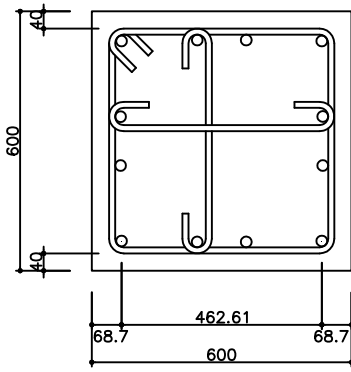
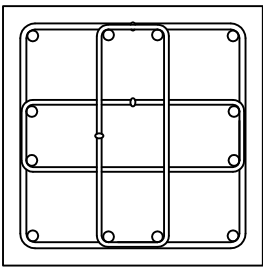
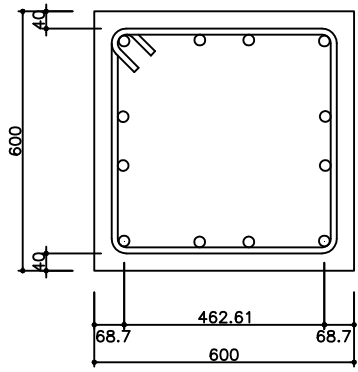
記号	C285	C185	C264
Dx × Dy(mm)	550 × 550	500 × 500	450 × 450
X方向主筋	4-D19	4-D19	4-D19
Y方向主筋	4-D19	4-D19	4-D19
HOOP	2-D10@75 (pw0.344%)	2-D10@75 (pw0.378%)	2-D10@100 (pw0.315%)
断面形状			
記号	C164 , C243 , C143A	C143	
Dx × Dy(mm)	450 × 450	400 × 400	
X方向主筋	3-D19	3-D19	
Y方向主筋	3-D19	3-D19	
HOOP	2-D10@100 (pw0.315%)	2-D10@100 (pw0.355%)	
断面形状			

※ 柱梁仕口部のHOOPは、柱のHOOPと同じ配筋とする。

柱

記号	C285B	C185B	C264B
Dx × Dy(mm)	600 × 600	500 × 500	500 × 500
X方向主筋	4-D22	4-D19	4-D22
Y方向主筋	4-D22	4-D19	4-D22
HOOP	2-D10@75 (pw0.315%)	2-D10@75 (pw0.378%)	2-D10@100 (pw0.284%)
断面形状			
記号	C164B , C143AB	C143B	C243B
Dx × Dy(mm)	450 × 450	400 × 400	450 × 450
X方向主筋	3-D19	3-D19	4-D22
Y方向主筋	3-D19	3-D19	4-D22
HOOP	2-D10@100 (pw0.315%)	2-D10@100 (pw0.355%)	2-D10@100 (pw0.315%)
断面形状			

※ 柱梁仕口部のHOOPは、柱のHOOPと同じ配筋とする。

記号	1C1	2C1
Dx × Dy(mm)	600 × 600	600 × 600
X方向主筋	4-D22	4-D22
Y方向主筋	4-D22	4-D22
HOOP	3-D13@75 (pw0.846%) <small>(閉鎖形とした場合)</small> 2-D13@75 2-D10@75 (pw0.880%)	2-D13@100 (pw0.635%)
断面形状	 <p>HOOP:3-D13@75</p>  <p>HOOP:2-D13@75 HOOP:2-D10@75 <small>(閉鎖形とした場合)</small></p>	

※ 柱梁仕口部のHOOPは、柱のHOOPと同じ配筋とする。

(3) 梁断面リスト

基礎梁(2階建て部分)

記号	FG21	FG22	FG23
b(mm)×D(mm)	350×800	350×800	350×800
上端主筋	6-D22	5-D22	4-D22
下端主筋	6-D22	5-D22	4-D22
STP	2-D10@200 <small>(pw0.202%)</small>	2-D10@200 <small>(pw0.202%)</small>	2-D10@200 <small>(pw0.202%)</small>
断面形状			
記号	FG24 , FG25		
b(mm)×D(mm)	350×800		
上端主筋	4-D19		
下端主筋	4-D19		
STP	2-D10@200 <small>(pw0.202%)</small>		
断面形状			

腹筋 ※： 梁せい600を超える場合 2-D10

幅止 ※： D10 @1000以下

かぶり ※： 図中、上下端又は左右端のかぶりが異なるが、直交部材や鉛直部材との関係によって逆になる。

基礎梁(平家建て部分)

記号	FG11	FG12	FG13
b(mm)×D(mm)	350×800	350×800	350×800
上端主筋	6-D22	4-D19	4-D19
下端主筋	6-D22	4-D19	4-D19
STP	2-D10@200 (pw0.202%)	2-D10@200 (pw0.202%)	2-D10@200 (pw0.202%)
断面形状			
記号			
b(mm)×D(mm)			
上端主筋			
下端主筋			
STP			
断面形状			

腹筋 ※： 梁せい600を超える場合 2-D10

幅止 ※： D10 @1000以下

かぶり ※： 図中、上下端又は左右端のかぶりが異なるが、直交部材や鉛直部材との関係によって逆になる。

基礎梁

記号	FG08	FG05	
b(mm)×D(mm)	350×900	350×900	
上端主筋	5-D22	3-D22	
下端主筋	5-D22	3-D22	
STP ※	2-D10@150 (pw0.270%)	2-D10@150 (pw0.270%)	
断面形状			

腹筋 ※: 梁せい600を超える場合 2-D10

幅止 ※: D10 @1000以下

かぶり ※: 図中、上下端又は左右端のかぶりが異なるが、直交部材や鉛直部材との関係によって逆になる。

2階梁(2階建て部分)

記号	2G21 (2G21A)	2G22 (2G22A)	2G23 (2G23A)
b(mm)×D(mm)	350×750	350×650	350×600
上端主筋	5-D22	5-D19	4-D19
下端主筋	5-D22	5-D19	4-D19
STP ※	2-D10@150 (pw0.270%) (3-D10@100 (pw0.608%))	2-D10@150 (pw0.270%) (3-D10@100 (pw0.608%))	2-D10@150 (pw0.270%) (3-D10@100 (pw0.608%))
断面形状			
記号	2G24 (2G24A)	2G25 (2G25A)	
b(mm)×D(mm)	350×650	350×500	
上端主筋	5-D19	4-D19	
下端主筋	5-D19	4-D19	
STP ※	2-D10@150 (pw0.270%) (3-D10@100 (pw0.608%))	2-D10@150 (pw0.270%) (3-D10@100 (pw0.608%))	STP ※: 3-D10@100の場合(pw0.608%)
断面形状			 部材記号は()内の記号とする 例: 2G21A

STP ※: その梁のスパンが構造グリッドスパンで3P以下の場合、全て3-D10@100に変更すること。

腹筋 ※: 梁せい600を超える場合 2-D10

幅止 ※: D10 @1000以下

かぶり ※: 図中、上下端又は左右端のかぶりが異なるが、直交部材や鉛直部材との関係によって逆になる。

2階梁

記号	2G08	2G05	2G03
b(mm)×D(mm)	350×750	350×650	350×650
上端主筋	6-D22	4-D22	4-D22
下端主筋	6-D22	4-D22	4-D22
STP ※	3-D10@150 (pw0.405%)	3-D10@150 (pw0.270%)	3-D10@100 (pw0.609%)
断面形状			

腹筋 ※： 梁せい600を超える場合 2-D10

幅止 ※： D10 @1000以下

かぶり ※： 図中、上下端又は左右端のかぶりが異なるが、直交部材や鉛直部材との関係によって逆になる。

R階梁(2階建て部分)

記号	RG21 (RG21A)	RG22 (RG22A)	RG23 (RG23A)
b(mm)×D(mm)	350×650	350×600	350×600
上端主筋	5-D22	5-D19	4-D19
下端主筋	5-D22	5-D19	4-D19
STP ※	2-D10@150 (pw0.270%) (3-D10@100 (pw0.608%))	2-D10@150 (pw0.270%) (3-D10@100 (pw0.608%))	2-D10@150 (pw0.270%) (3-D10@100 (pw0.608%))
断面形状			
記号	RG24 (RG24A)	RG25 (RG25A)	
b(mm)×D(mm)	350×550	350×450	
上端主筋	5-D19	3-D19	
下端主筋	5-D19	3-D19	
STP ※	2-D10@150 (pw0.270%) (3-D10@100 (pw0.608%))	2-D10@150 (pw0.270%) (3-D10@100 (pw0.608%))	STP ※: 3-D10@100の場合(pw0.608%)
断面形状			

部材記号は()内の記号とする
例: RG21A

STP ※: 梁を配置後に、その梁のスパンが3P以下の場合、全て3-D10@100に変更すること。

腹筋 ※: 梁せい600を超える場合 2-D10

幅止 ※: D10 @1000以下

かぶり ※: 図中、上下端又は左右端のかぶりが異なるが、直交部材や鉛直部材との関係によって逆になる。

R階梁

記号	RG08	RG05	RG03
b(mm)×D(mm)	350×700	350×550	350×550
上端主筋	5-D22	3-D22	3-D22
下端主筋	5-D22	3-D22	3-D22
STP ※	2-D10@150 (ρw0.270%)	2-D10@150 (ρw0.270%)	3-D10@100 (ρw0.609%)
断面形状			

腹筋 ※: 梁せい600を超える場合 2-D10

幅止 ※: D10 @1000以下

かぶり ※: 図中、上下端又は左右端のかぶりが異なるが、直交部材や鉛直部材との関係によって逆になる。

R階梁(平家建て部分)

記号	RG11	RG12	RG13
b(mm)×D(mm)	350×650	350×550	350×550
上端主筋	7-D22	4-D19	3-D19
下端主筋	7-D22	4-D19	3-D19
STP ※	2-D10@150 (pw0.270%)	2-D10@150 (pw0.270%)	2-D10@150 (pw0.270%)
断面形状			
記号	RG14	RG15	RG16
b(mm)×D(mm)	350×500	350×450	350×450
上端主筋	3-D16	3-D19	3-D16
下端主筋	3-D16	3-D19	3-D16
STP ※	2-D10@150 (pw0.270%)	2-D10@150 (pw0.270%)	2-D10@150 (pw0.270%)
断面形状			

かぶり ※: 図中、上下端又は左右端のかぶりが異なるが、直交部材や鉛直部材との関係によって逆になる。

(4) 小梁断面リスト

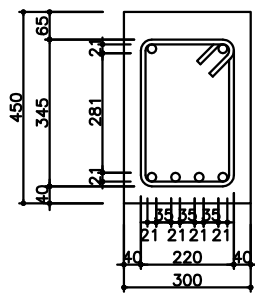
小梁

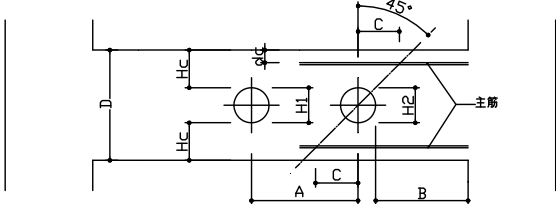
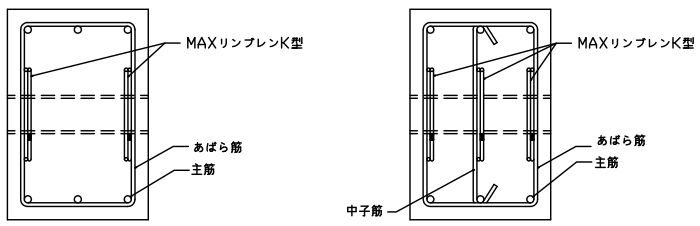
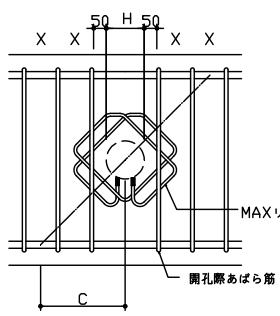
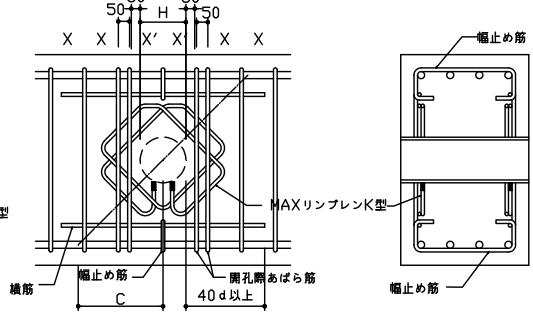
記号	RB16	RB15	RB14
b(mm)×D(mm)	350×500	300×450	250×450
上端主筋	3-D19	3-D19	2-D19
下端主筋	4-D19	4-D19	2-D19
STP ※	2-D10@200 (pw0.202%)	2-D10@200 (pw0.236%)	2-D10@200 (pw0.284%)
断面形状			
記号	BB16	BB15	BB14
b(mm)×D(mm)	350×550	300×500	250×450
上端主筋	3-D19	2-D19	2-D19
下端主筋	4-D19	3-D19	2-D19
STP ※	2-D10@200 (pw0.202%)	2-D10@200 (pw0.236%)	2-D10@200 (pw0.284%)
断面形状			
記号	2B16	2B15	2B14
b(mm)×D(mm)	350×550	350×500	250×450
上端主筋	4-D19	3-D19	2-D19
下端主筋	5-D19	4-D19	3-D19
STP ※	2-D10@200 (pw0.202%)	2-D10@200 (pw0.202%)	2-D10@200 (pw0.284%)
断面形状			

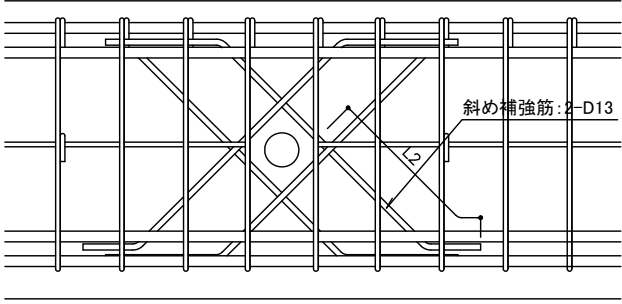
小梁

記号	RB26	RB25	RB24
b(mm)×D(mm)	350×500	300×450	250×450
上端主筋	4-D19	4-D19	2-D19
下端主筋	4-D19	4-D19	2-D19
STP ※	2-D10@200 (pw0.202%)	2-D10@200 (pw0.236%)	2-D10@200 (pw0.284%)
断面形状			
記号	BB26	BB25	BB24
b(mm)×D(mm)	350×550	300×500	250×450
上端主筋	4-D19	4-D19	2-D19
下端主筋	4-D19	4-D19	2-D19
STP ※	2-D10@200 (pw0.202%)	2-D10@200 (pw0.236%)	2-D10@200 (pw0.284%)
断面形状			
記号	2B26	2B25	2B24
b(mm)×D(mm)	350×550	350×500	250×450
上端主筋	5-D19	4-D19	3-D19
下端主筋	5-D19	4-D19	3-D19
STP ※	2-D10@200 (pw0.202%)	2-D10@200 (pw0.202%)	2-D10@200 (pw0.284%)
断面形状			

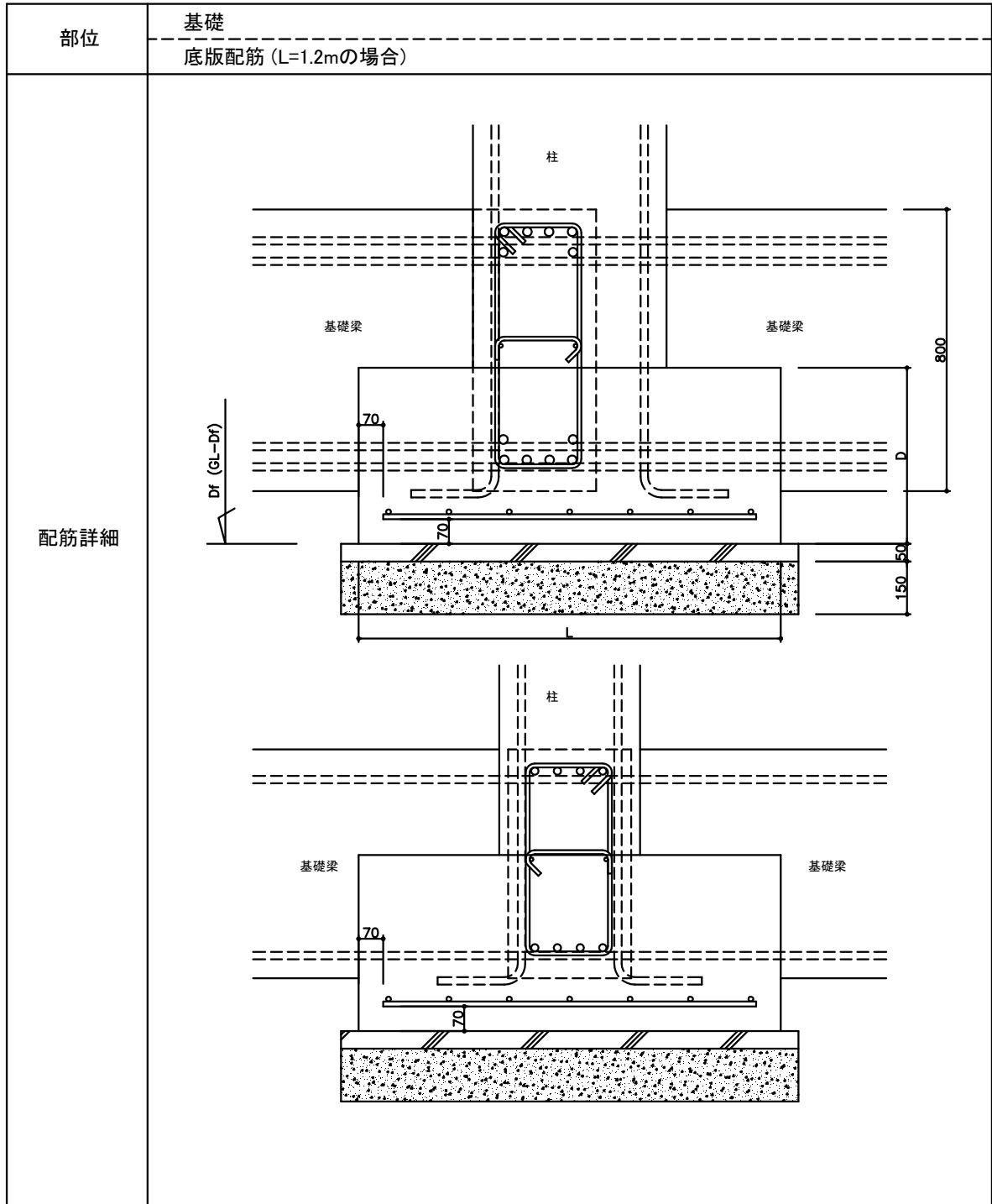
小梁

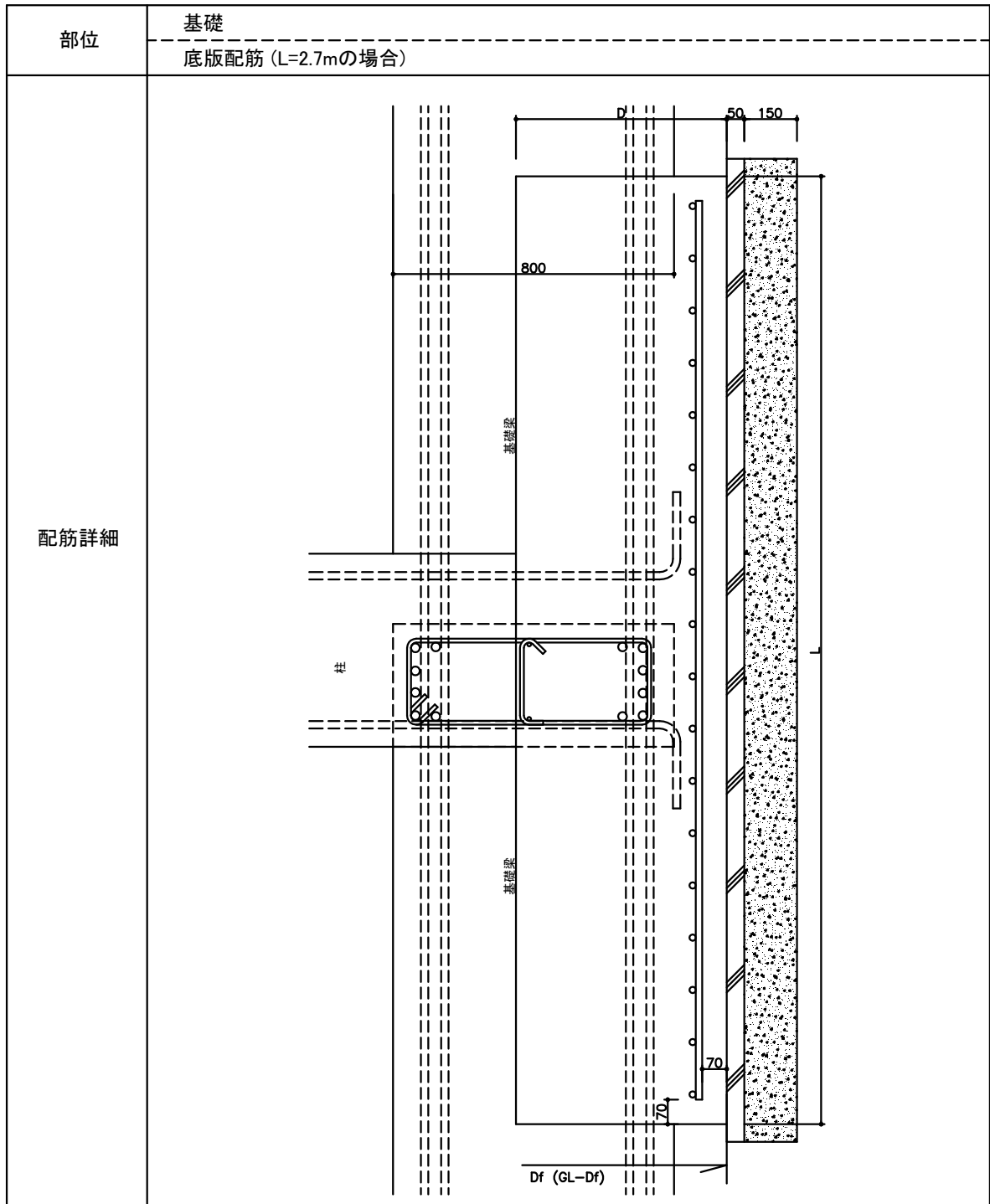
記号	WB3		
b(mm) × D(mm)	300 × 450		
上端主筋	2-D19		
下端主筋	4-D19		
STP ※	2-D10@200 (ρw0.202%)		
断面形状			

部位	梁貫通孔の配置及び補強方法(100φ以上)
配筋詳細	<p>1、基本事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 貫通孔の補強には既製品による補強金物（評定品）を利用する。 既製補強金物の設計・施工方法は、評定の適用範囲内で標準仕様に従って使用する。 <p>【MAXリンプレク型(丸井産業株式会社)使用の場合を以下に示す】</p> <p>1、ヶ所数、開孔径及び、開孔位置</p> <ol style="list-style-type: none"> 貫通孔は原則として梁1本につき3ヶ所までとする。 孔径(H) : $H \leq D / 3$ ただし $100 \leq H \leq 200$ (mm) 孔の水平方向中心間距離(A) : $A \geq 3H$ 径が異なる場合、$A \geq (H1+H2) / 2 \times 3$ 柱際から孔際までの距離(B) : $B \geq D$ 孔上下位置(Hc) : $450 \leq D < 700$ $Hc \geq 175$ $700 \leq D < 900$ $Hc \geq 200$ かつ $Hc \geq D / 5$  <p>図1 貫通孔の適用開孔位置</p> <p>2、MAXリンプレク型の取り付け</p> <ol style="list-style-type: none"> MAXリンプレク型はあばら筋の内側に取り付けれる。 3枚以上の場合は、中子筋に取り付け、MAXリンプレク型の間隔は50mm以上とする。  <p>2枚の配筋例 3枚以上の配筋例</p> <p>図2 MAXリンプレク型の取り付け</p> <p>2、開孔あばら筋の基本配筋</p> <ol style="list-style-type: none"> 開孔あばら筋は、一般あばら筋と同種同形状とし、基本組数を開孔径が、$H < 250$ のとき開孔際に1組、$250 \leq H$ のとき開孔際に2組とする。(図3、参照) 開孔あばら筋は、開孔際から50mmのかぶり厚さとし、2組目以上の場合50mmピッチとする。(図4参照) <p>3、孔上下部の補強</p> <ol style="list-style-type: none"> 開孔径が$250 \leq H$ のときは孔上下にあばら筋の設計ピッチ以内(X')で幅止め筋を設ける。(図4参照) 開孔径が$250 \leq H$ のとき、主筋とMAXリンプレク型の端部間隔(S)が30mm以上の場合は、孔上下にあばら筋の設計ピッチ以内(X')で あばら筋を設ける。(図3参照) 横筋は設計あばら筋径と同等以上を用い、定着長さは開孔際から40以上とする。(図4、参照)  <p>開孔あばら筋1組</p>  <p>開孔あばら筋2組</p> <p>図3 開孔あばら筋の基本配筋 $H < 250$ 図4 開孔あばら筋の基本配筋 $250 \leq H$</p>

部位	梁貫通孔の配置及び補強方法(100φ未満)
配筋詳細	 <p>斜め補強筋: 2-D13</p>

(5) 基礎配筋図



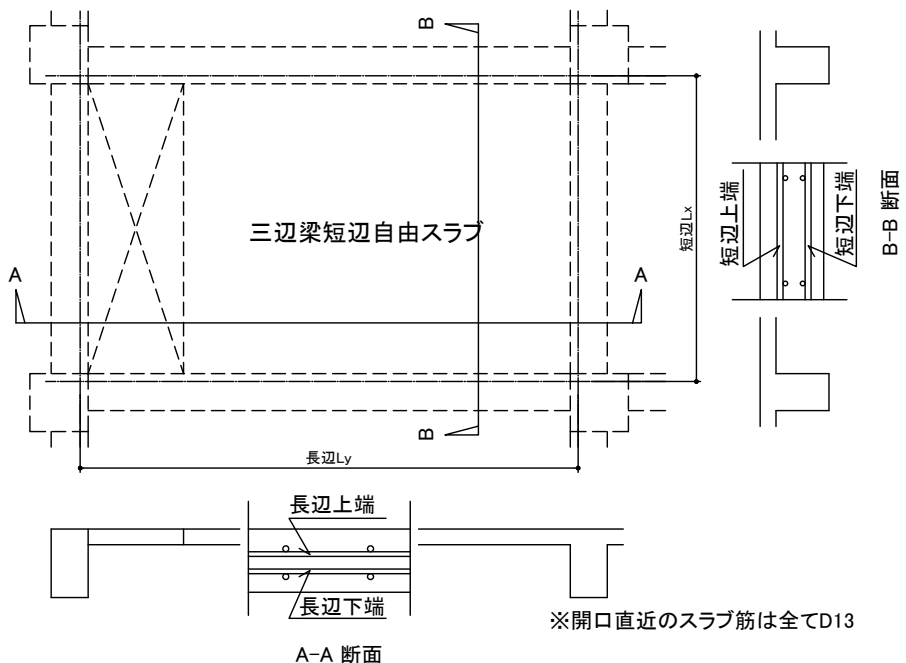
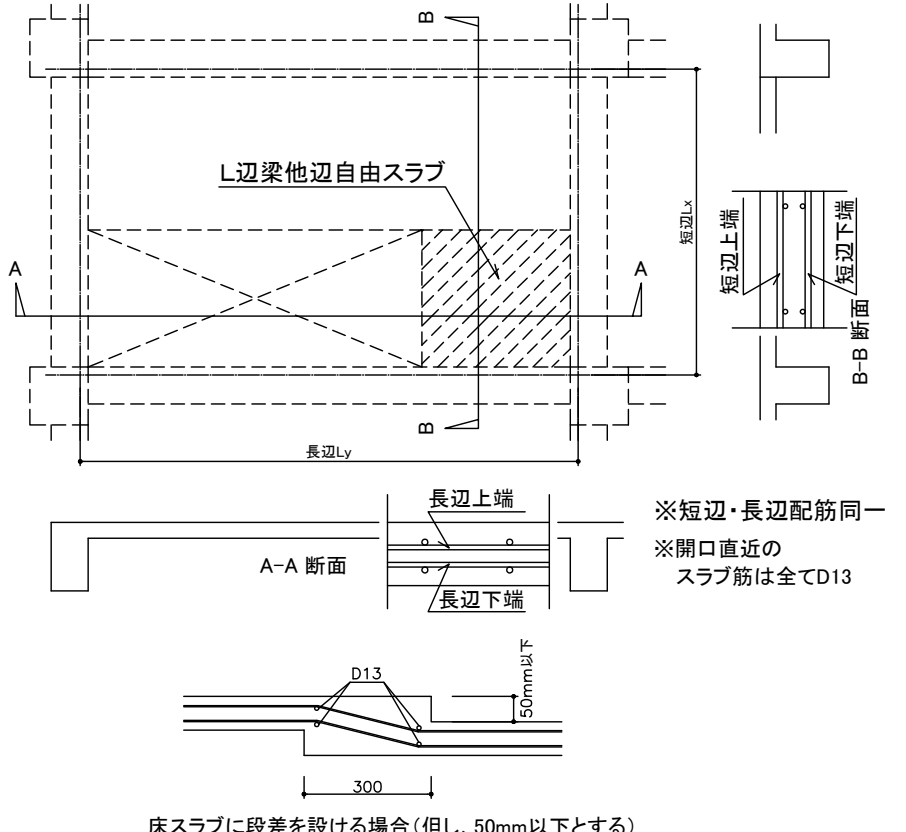


部位	基礎(地盤補強杭を用いた基礎の場合) 底板配筋
配筋詳細	<p>The diagrams illustrate the reinforcement details for three types of foundation slabs (PF11, PF12, PF21, PF22, and PF3) used in foundations with ground improvement piles. Each diagram shows a plan view of the slab with reinforcement bars and dimensions.</p> <ul style="list-style-type: none"> PF11, PF12: Slab width is 1100 mm, height is 550 mm. Reinforcement bars are shown with a 70 mm offset from the edges. A dimension of 70 mm is indicated for the offset. A note 'Df (GL-Df)' is present. PF21, PF22: Slab width is 2000 mm, height is 800 mm. Reinforcement bars are shown with a 70 mm offset from the edges. A dimension of 20d is indicated for the offset. PF3: Slab width is 1700 mm, height is 550 mm. Reinforcement bars are shown with a 70 mm offset from the edges. A dimension of 20d is indicated for the offset.

部位	基礎 基礎と基礎梁に段差がある場合
配筋詳細	<p>基礎梁</p> <p>基礎</p> <p>柱</p> <p>2-D16</p> <p>あばら筋と同ピッチ ダブル D13</p> <p>L2</p> <p>200mm</p> <p>25d</p> <p>基礎梁</p> <p>基礎</p> <p>*段差0の場合は不要 あばら筋と同ピッチ ダブル D13</p> <p>2-D16</p> <p>L2</p> <p>200以下</p> <p>段差が200mm超の場合</p> <p>段差が 0~200mm以下の場合</p>

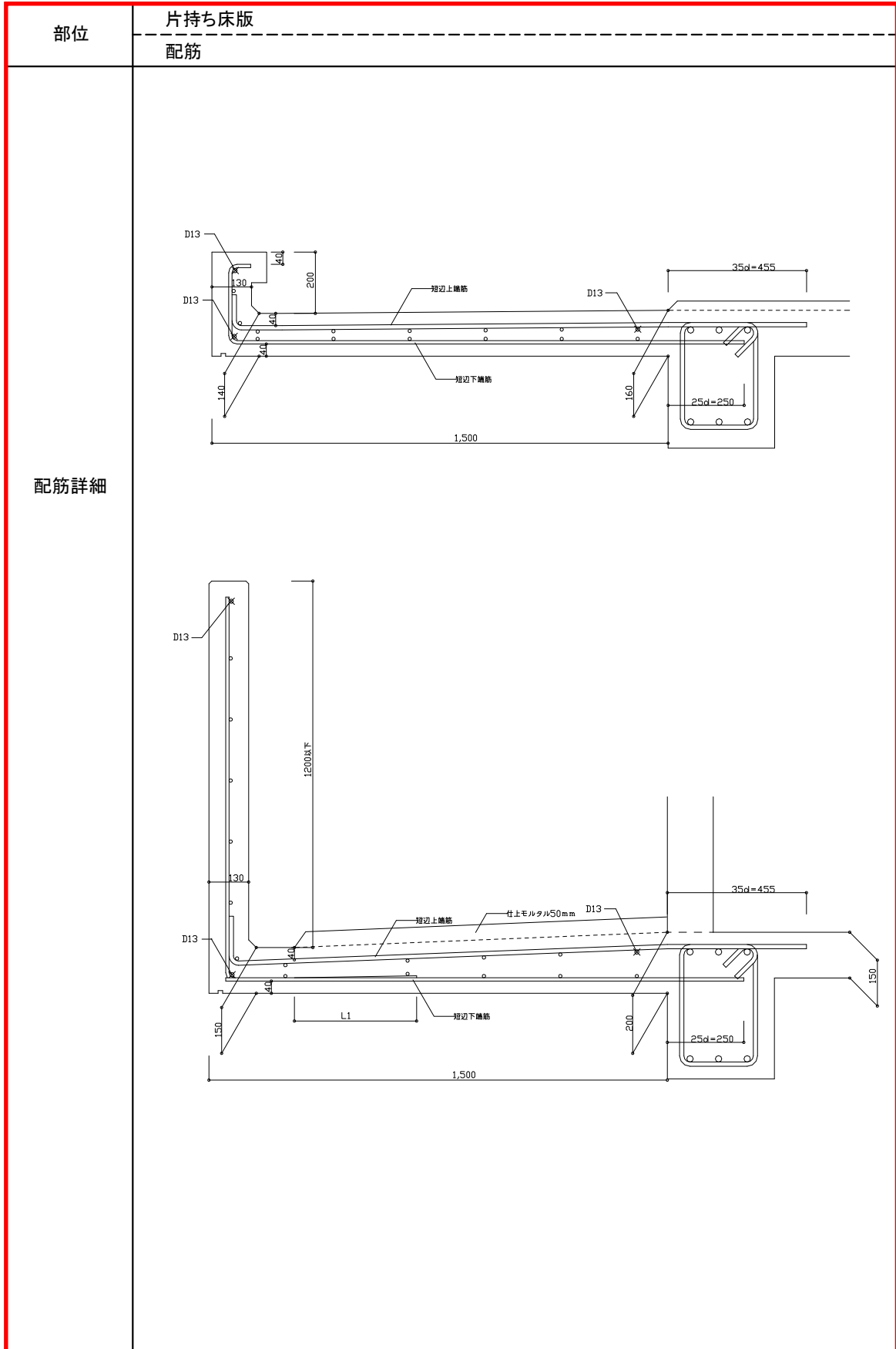
(6) 床配筋図

部位	床版① 配筋 (モチアミ配筋)
配筋詳細	<p>四辺梁スラブ</p> <p>長辺Ly</p> <p>短辺Lx</p> <p>A-A 断面</p> <p>B-B 断面</p> <p>三辺梁長辺自由スラブ</p> <p>長辺Ly</p> <p>短辺Lx</p> <p>A-A 断面</p> <p>B-B 断面</p> <p>※開口直近のスラブ筋は全てD13</p>

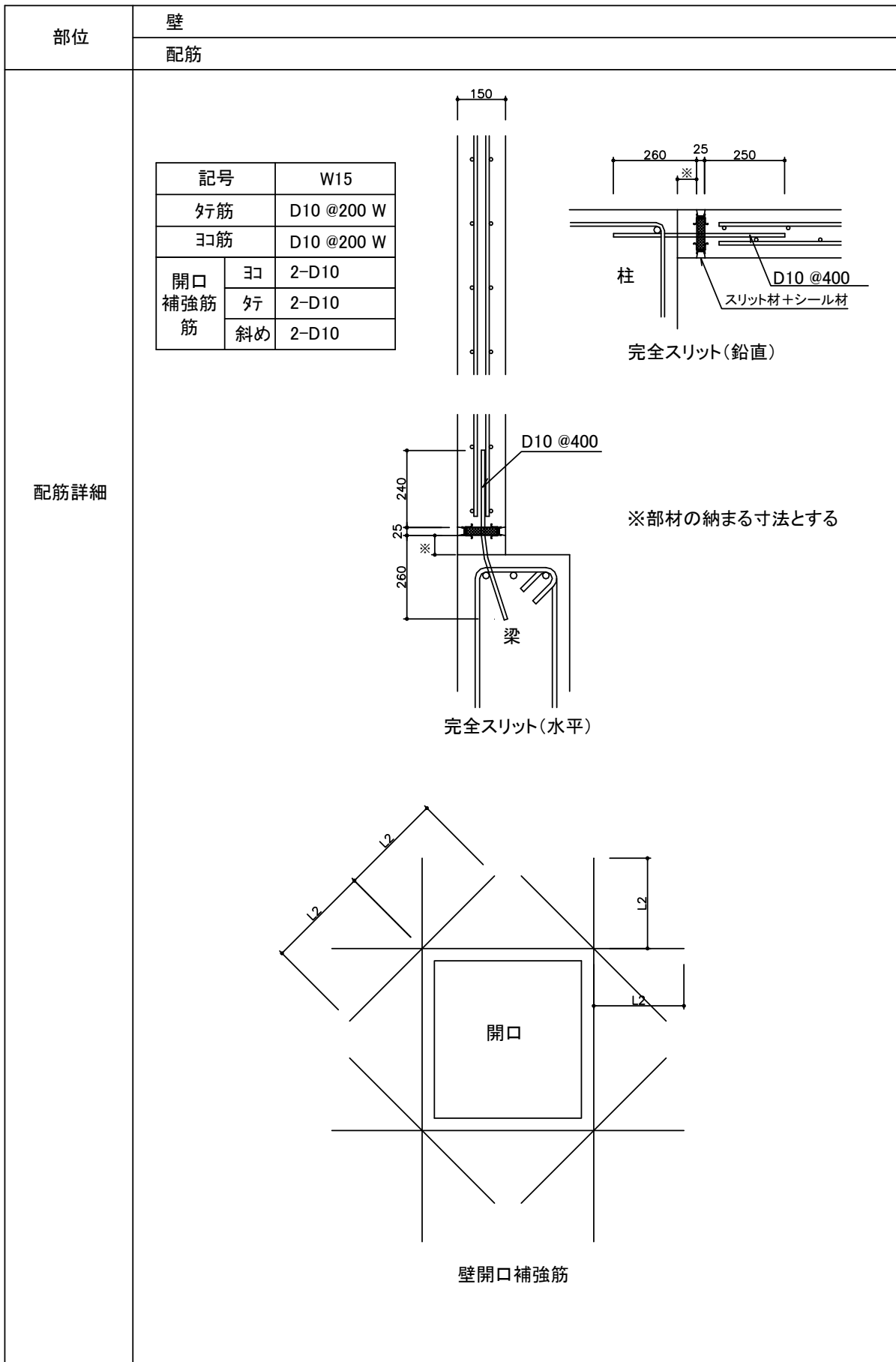
<p>部位</p>	<p>床版② 配筋 (モチアミ配筋)</p>
<p>配筋詳細</p>	<div style="text-align: center;">  <p>三辺梁短辺自由スラブ</p> <p>※開口直近のスラブ筋は全てD13</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>L辺梁他辺自由スラブ</p> <p>※短辺・長辺配筋同一 ※開口直近のスラブ筋は全てD13</p> <p>床スラブに段差を設ける場合 (但し、50mm以下とする)</p> </div>

<p>部位</p>	<p>床版③ 屋根スラブの補強、床版開口補強</p>
<p>配筋詳細</p>	<p>建物の出隅は、上端筋の間隔がϕ@100以下となるようにスラブ筋と同径により補強する。その範囲は、短辺有効スパンの1/2とする。</p> <p>補強筋: 1-D13</p> <p>ずらす</p> <p>小開口を配置した場合</p> <p>開口300角程度以下を配置した場合</p> <p>斜め補強筋: 2-D13 上下端筋の内側にそれぞれ配筋</p> <p>切断した鉄筋と同断面鉄筋</p> <p>小開口を連続して配置した場合</p> <p>斜め補強筋: 2-D13 上下端筋の内側にそれぞれ配筋</p> <p>片持ちバルコニーの場合の梁外端面</p> <p>$n1, n2$: 切断される鉄筋の本数</p> <p>開口補強 (600 × 600以下)</p>

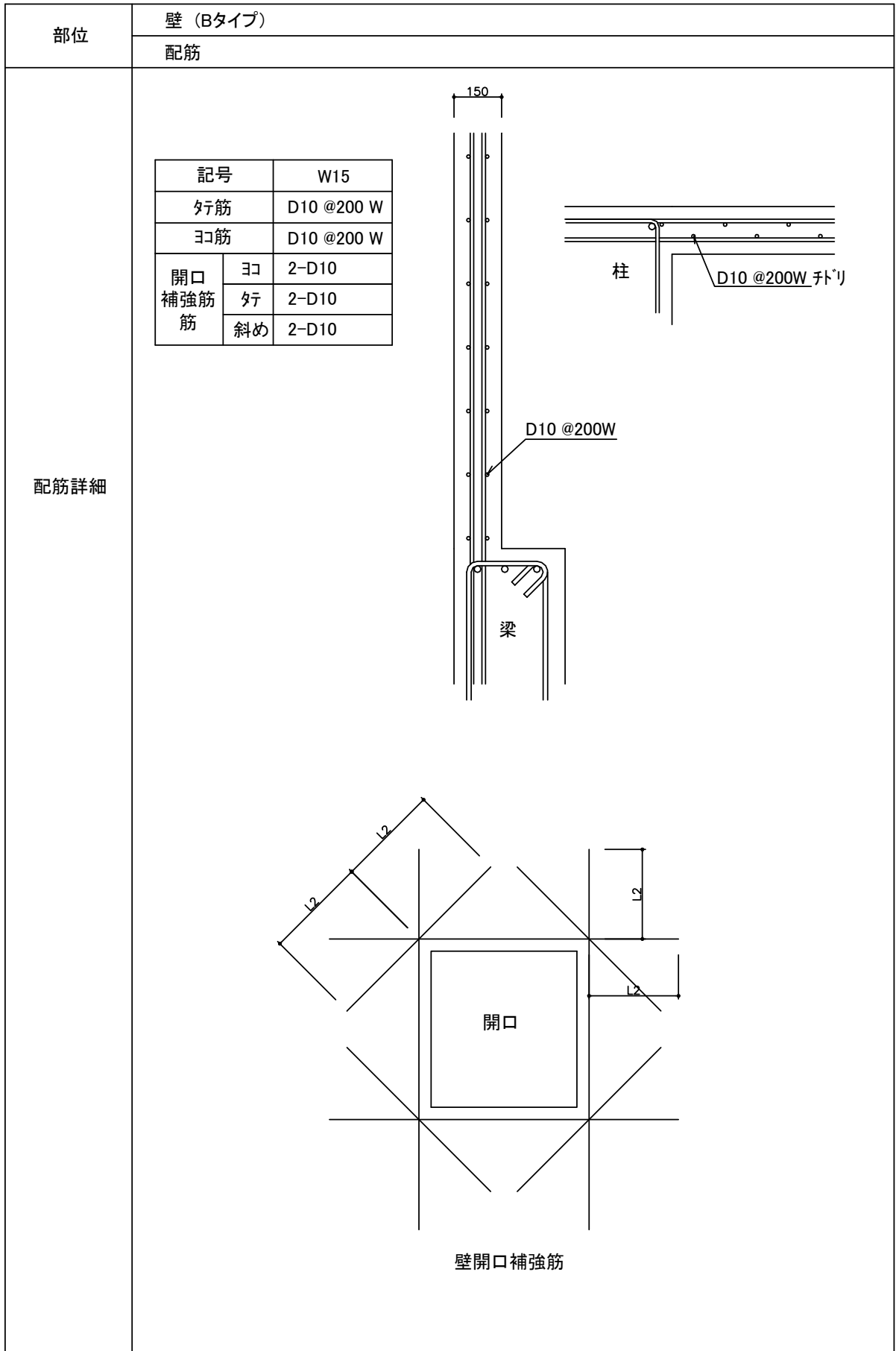
(7) 片持ち床配筋図



(8) 壁配筋図・構造スリット詳細図



部位	壁 構造スリットの配置
配筋詳細	<p>60超~300以下の袖壁 上下にスリット</p> <p>60mm以下の袖壁はスリット不要</p> <p>△ 完全スリット</p> <p>△ 完全スリット</p>

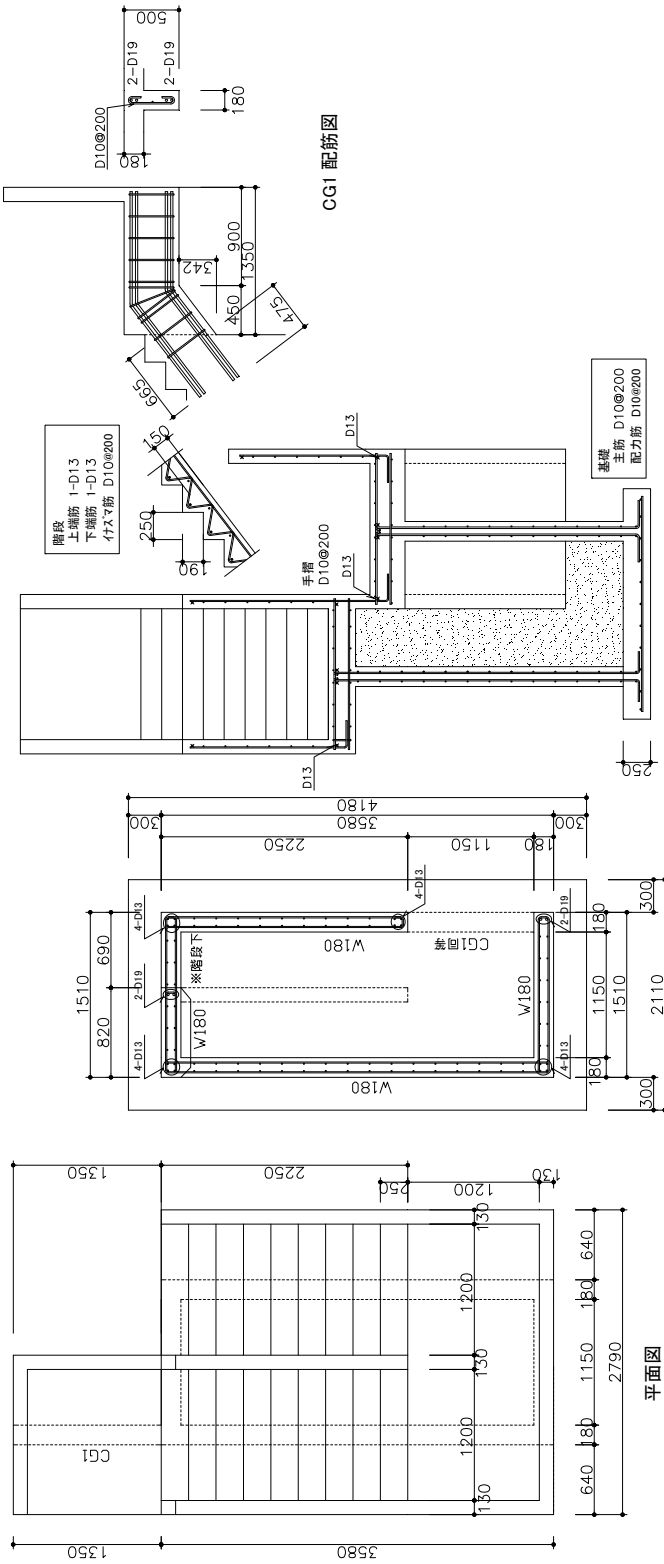


(9)標準外階段

標準外階段(WRC造)②

平面図、配筋図

部位

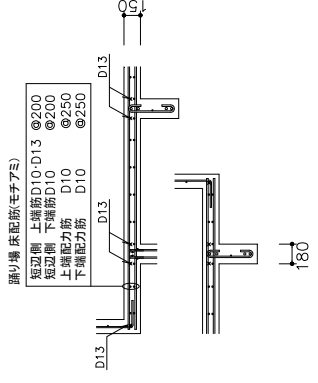


縦断面位置 配筋図

横断面位置 配筋図

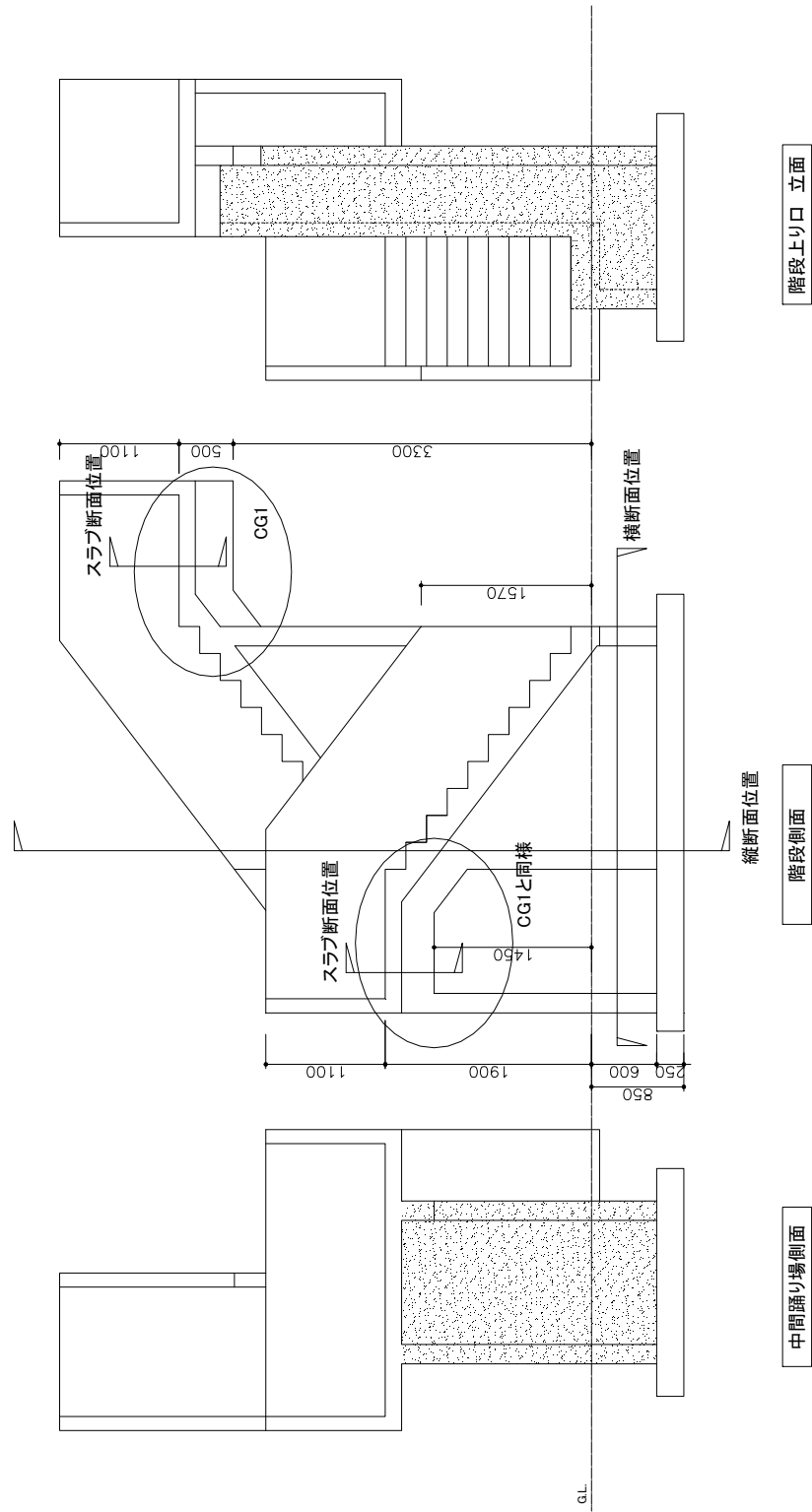
平面図

配筋詳細



標準外階段(WRC造)①

立面図



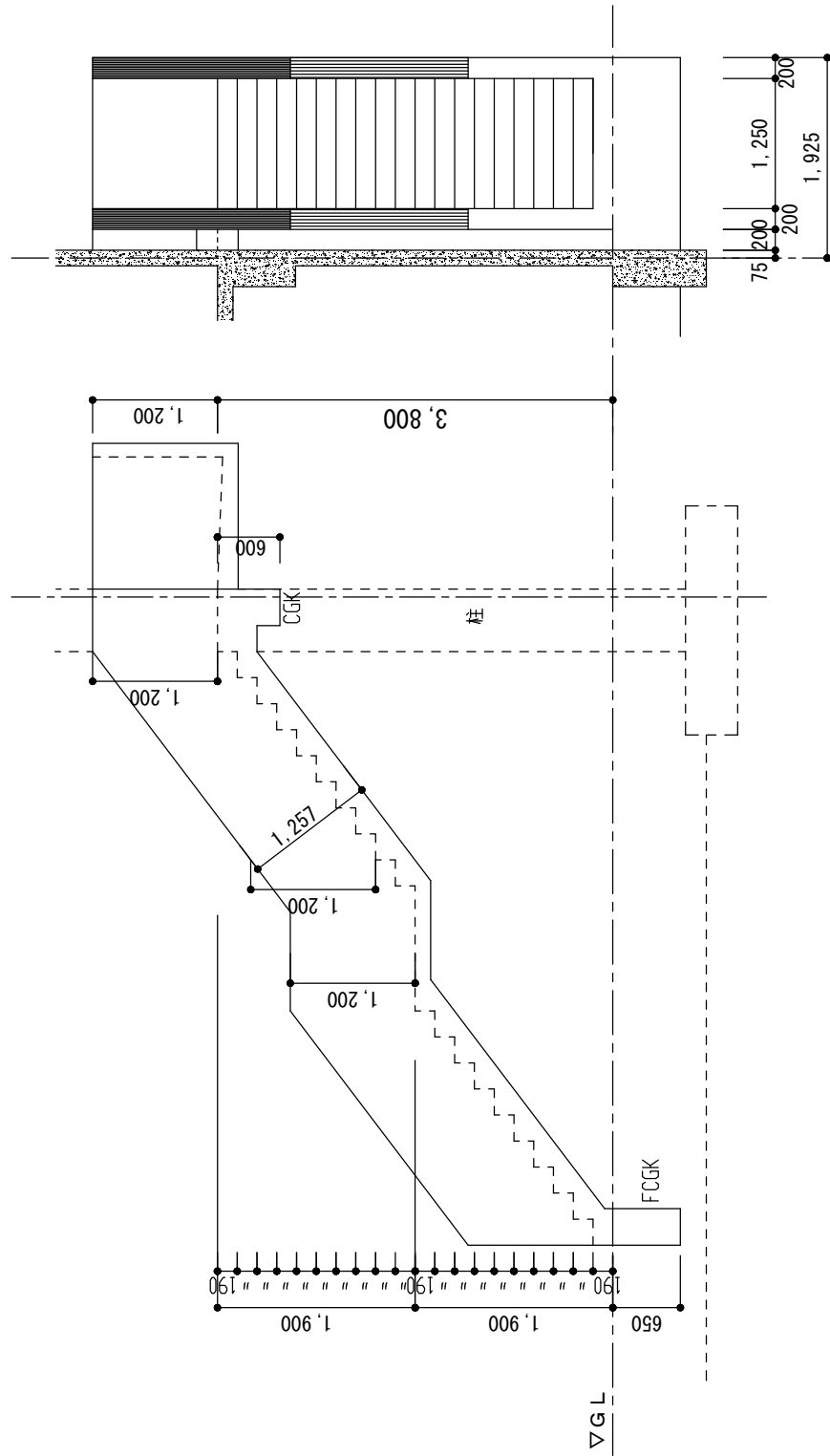
配筋詳細

部位

一方向階段

立面図

部位



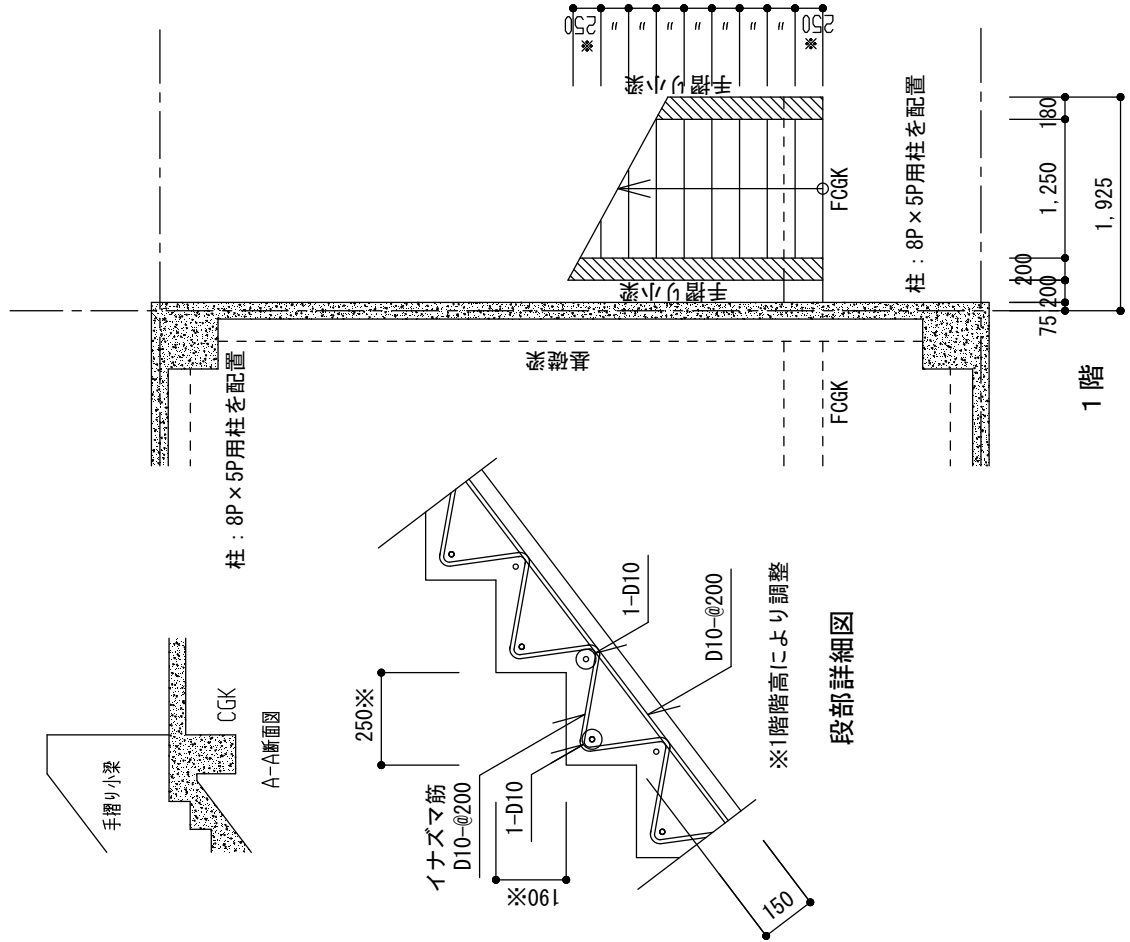
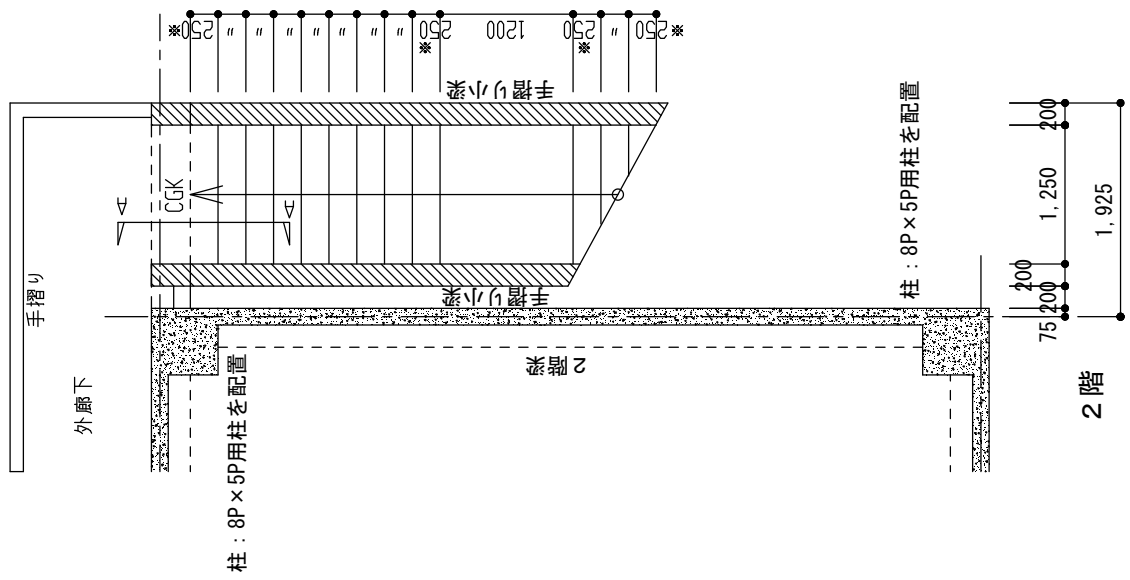
階段上り口 立面図

階段側面側立面図

配筋詳細

一方向階段

平面図



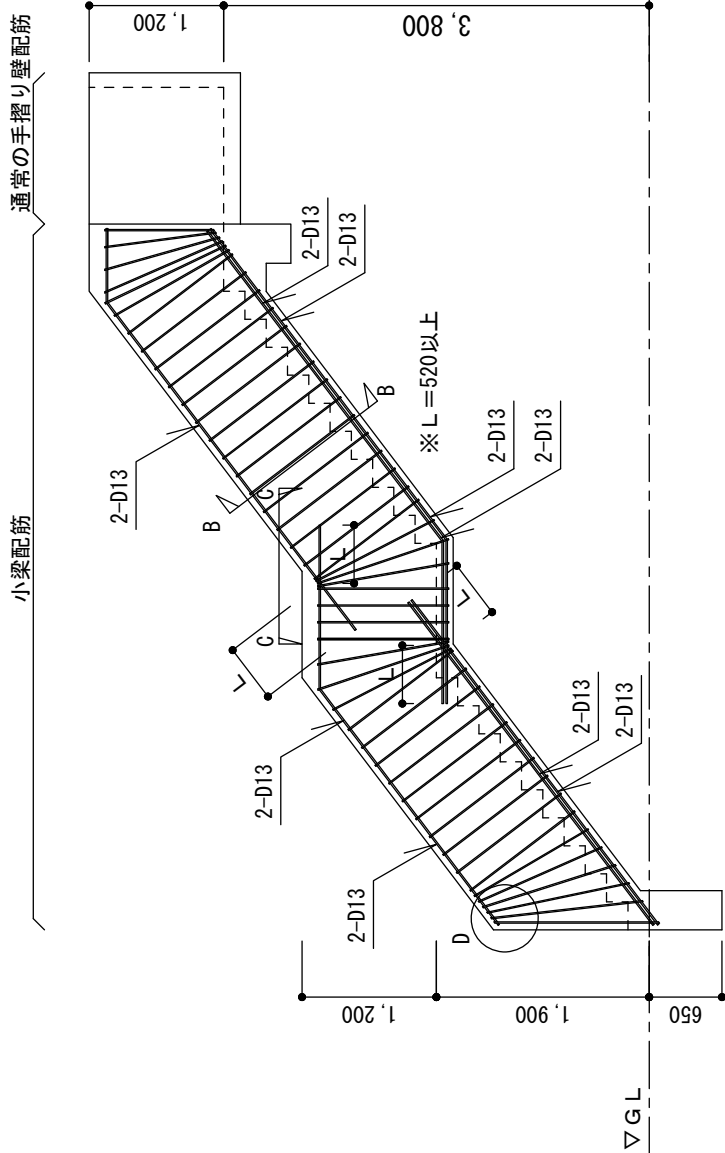
部位

配筋詳細

一方向階段

立面図

部位

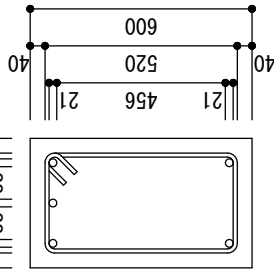
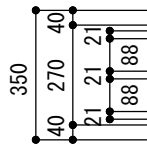


配筋詳細

手摺り小梁配筋図

一方向階段

梁リスト・配筋図

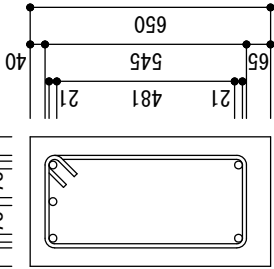
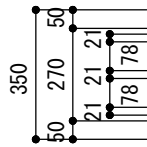


CGK配筋

上端筋：3-D19

下端筋：2-D19

S T P：□-D10-@150

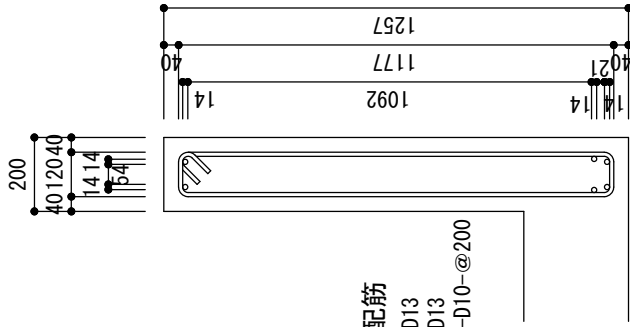


FCGK配筋

上端筋：3-D19

下端筋：2-D19

S T P：□-D10-@150



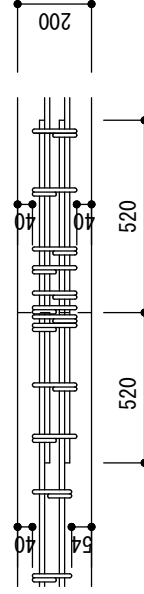
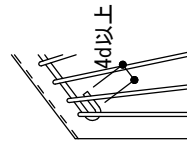
手摺り小梁配筋

上端筋：2-D13

下端筋：4-D13

S T P：□-D10-@200

B-B断面図



C-C断面図（踊場 小梁主筋定着配筋詳細）

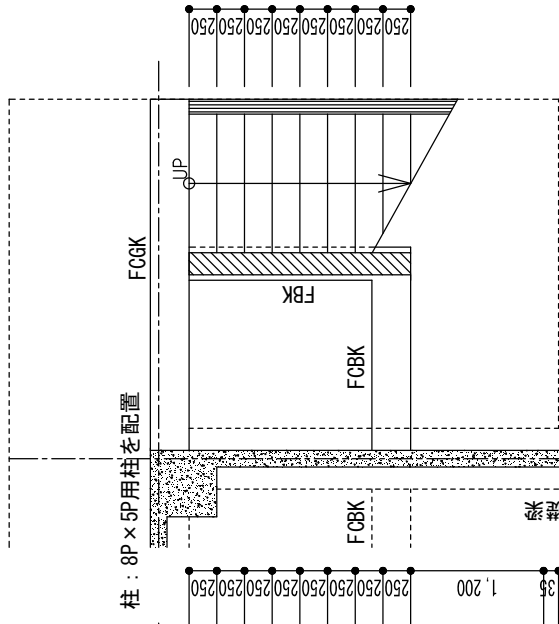
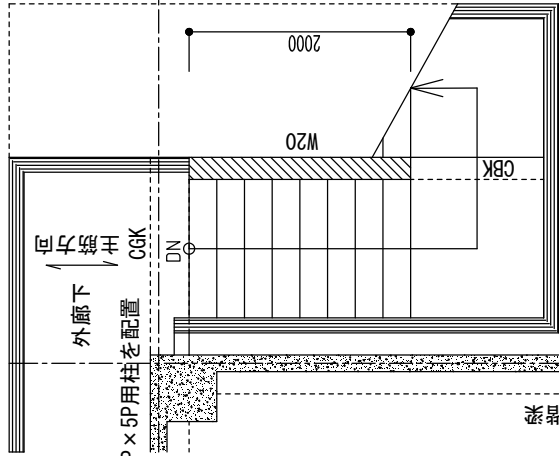
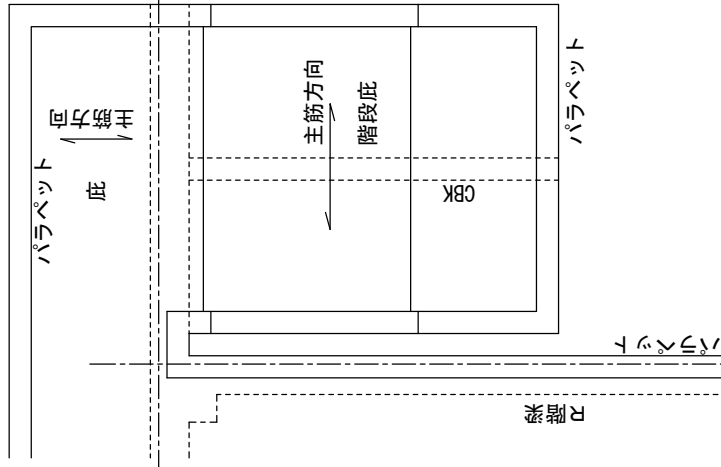
D部 小梁主筋端部詳細図

部位

配筋詳細

曲がり階段

平面図

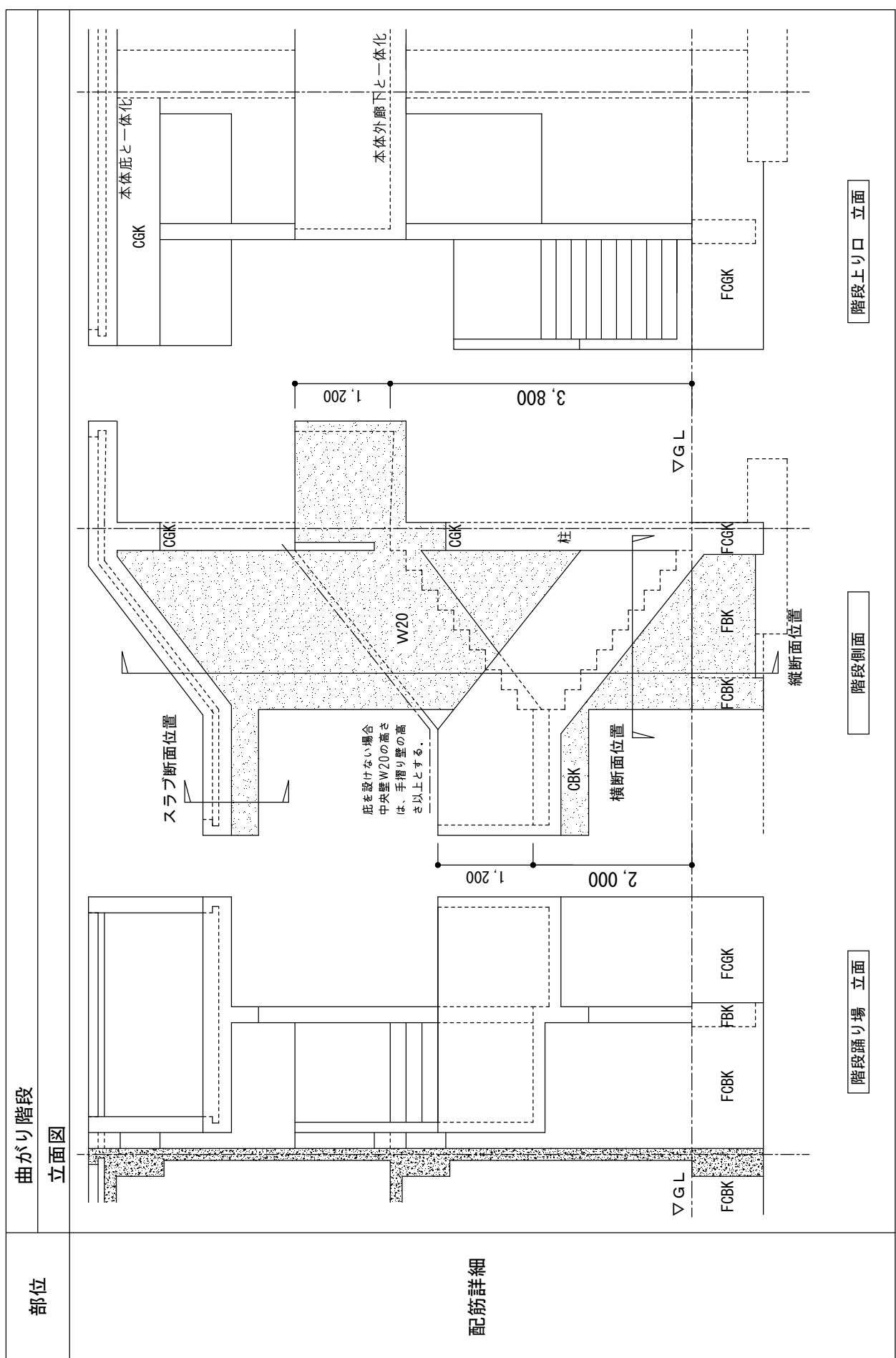


配筋詳細

R階床・梁伏図

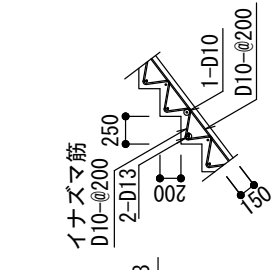
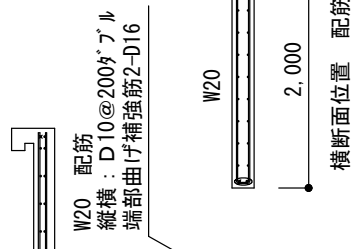
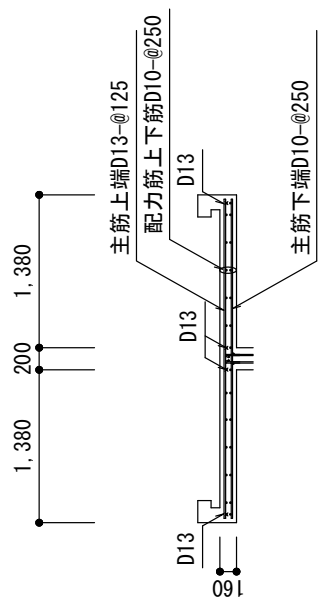
2階床・梁伏図

1階床・基礎梁伏図

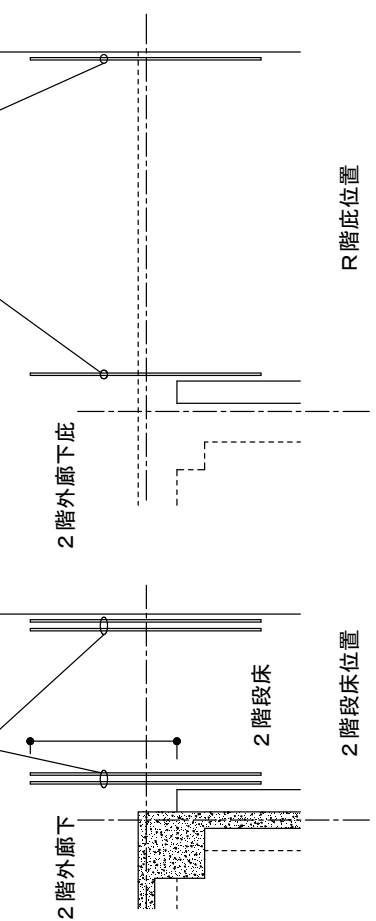


曲がり階段

配筋図

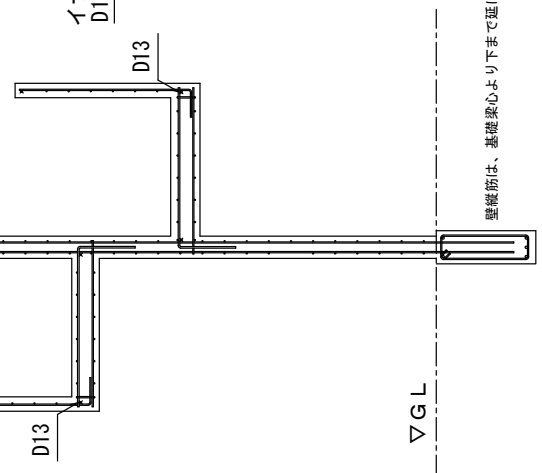


段部 配筋詳細図



スラブ内補強筋

配筋詳細

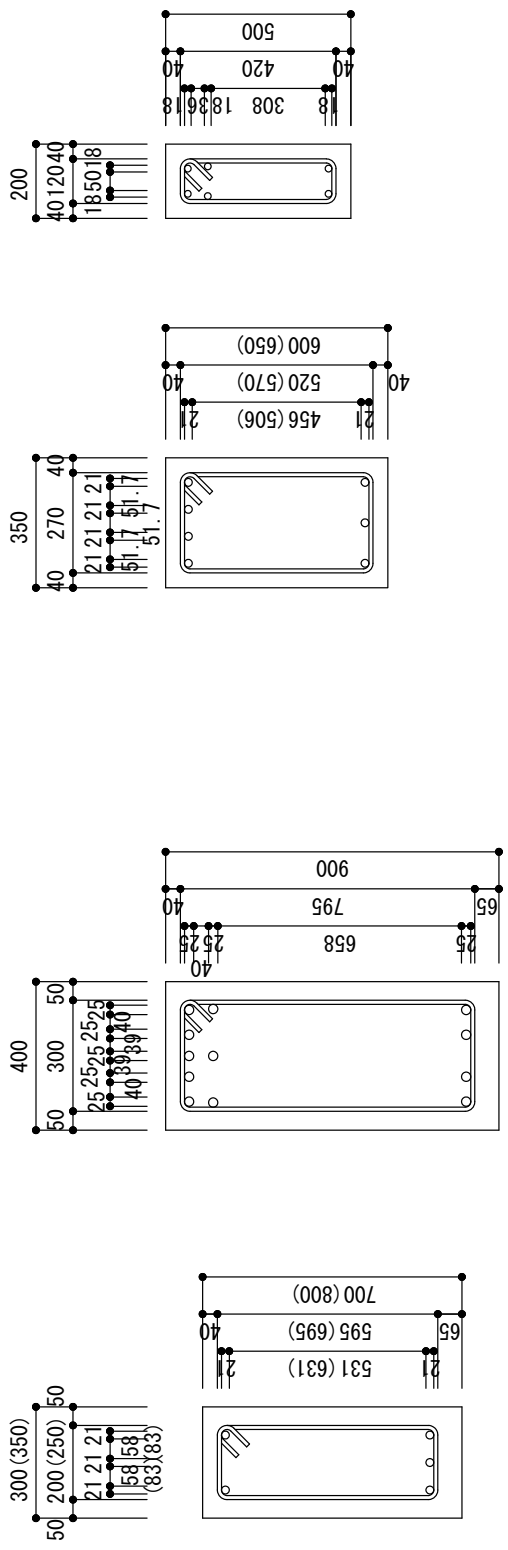


縦断面位置 配筋図

曲がり階段

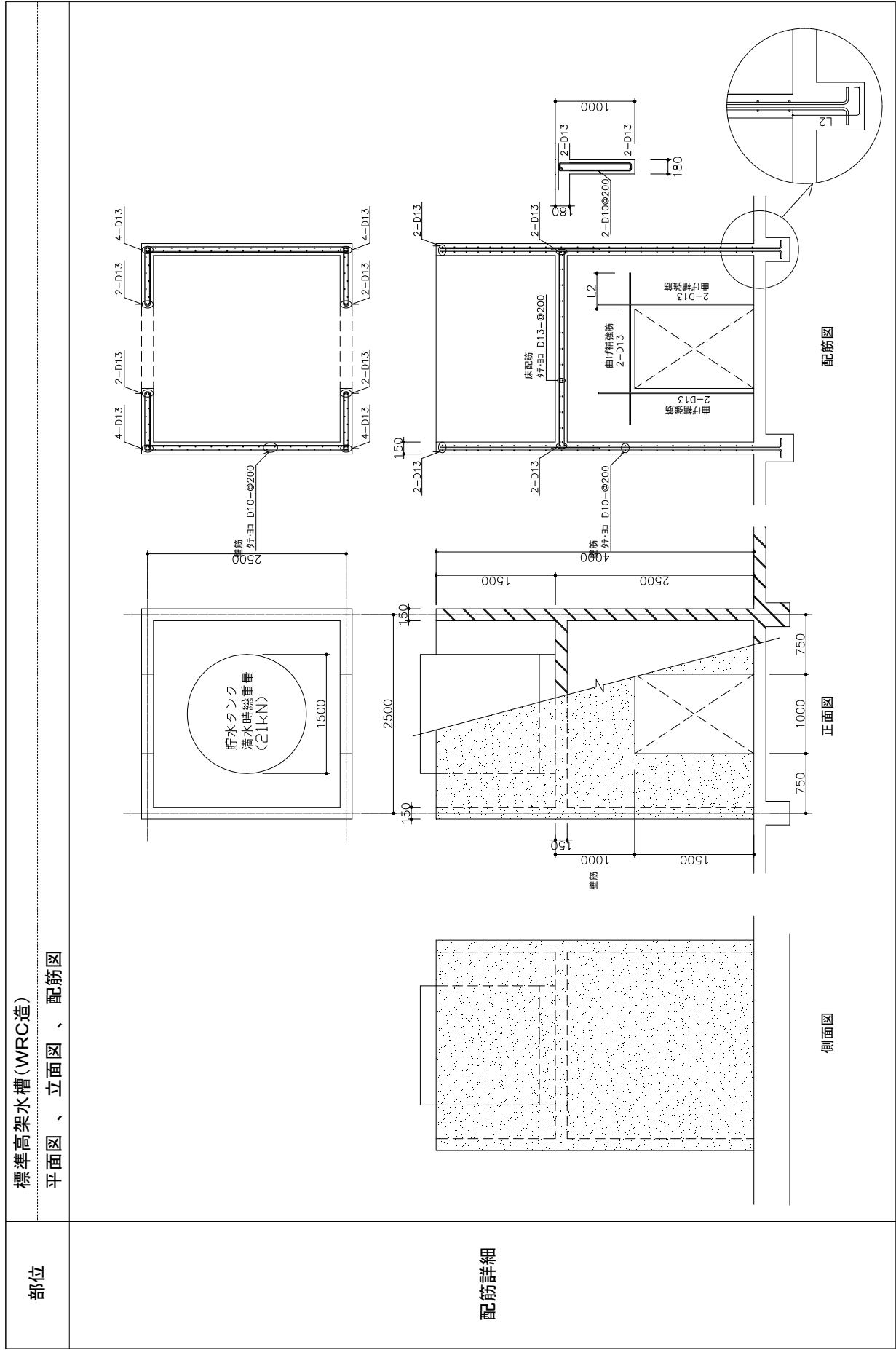
梁リスト

部位



配筋詳細

(10)高架水槽

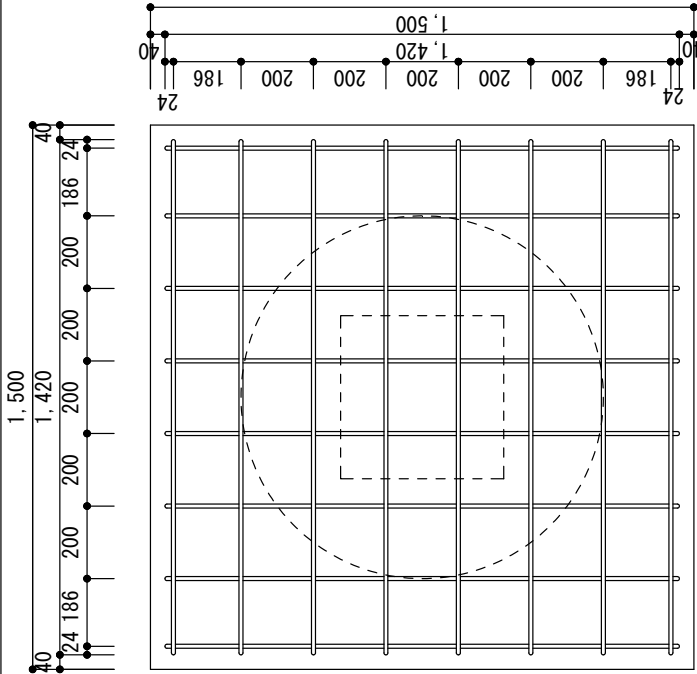


部位

部位

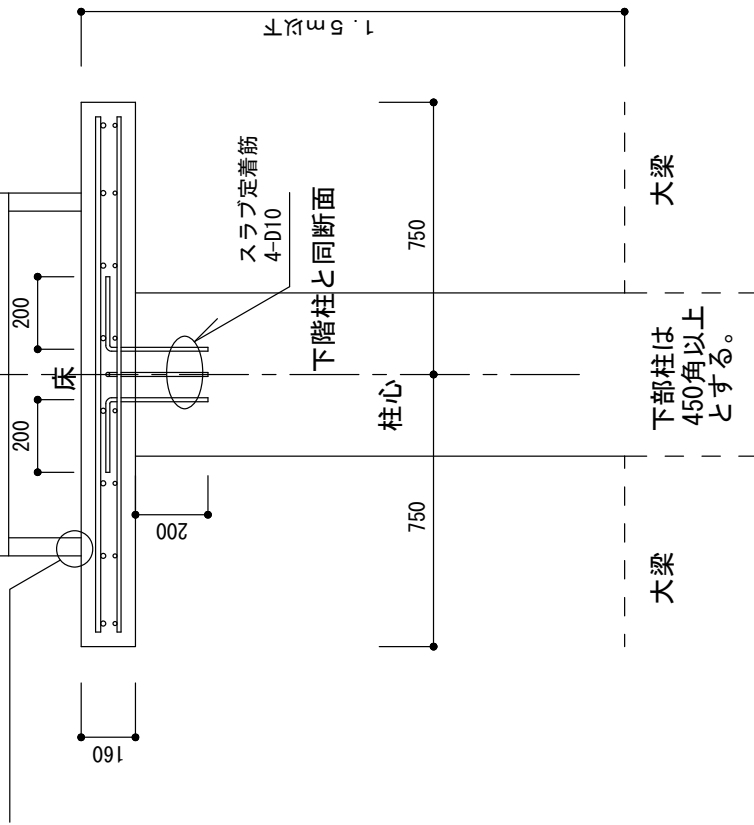
小型高架水槽

平面図、立面図、配筋図

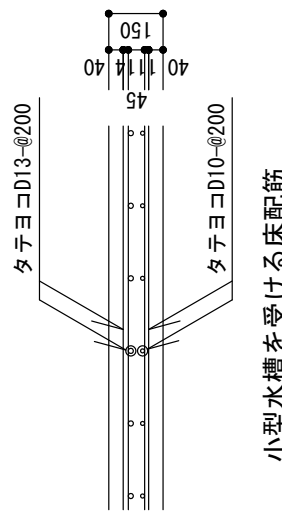


小型高架水槽

水槽は、床の上に直置きか、又は架台脚部支圧面積200mm以上を架台を用いて固定する。

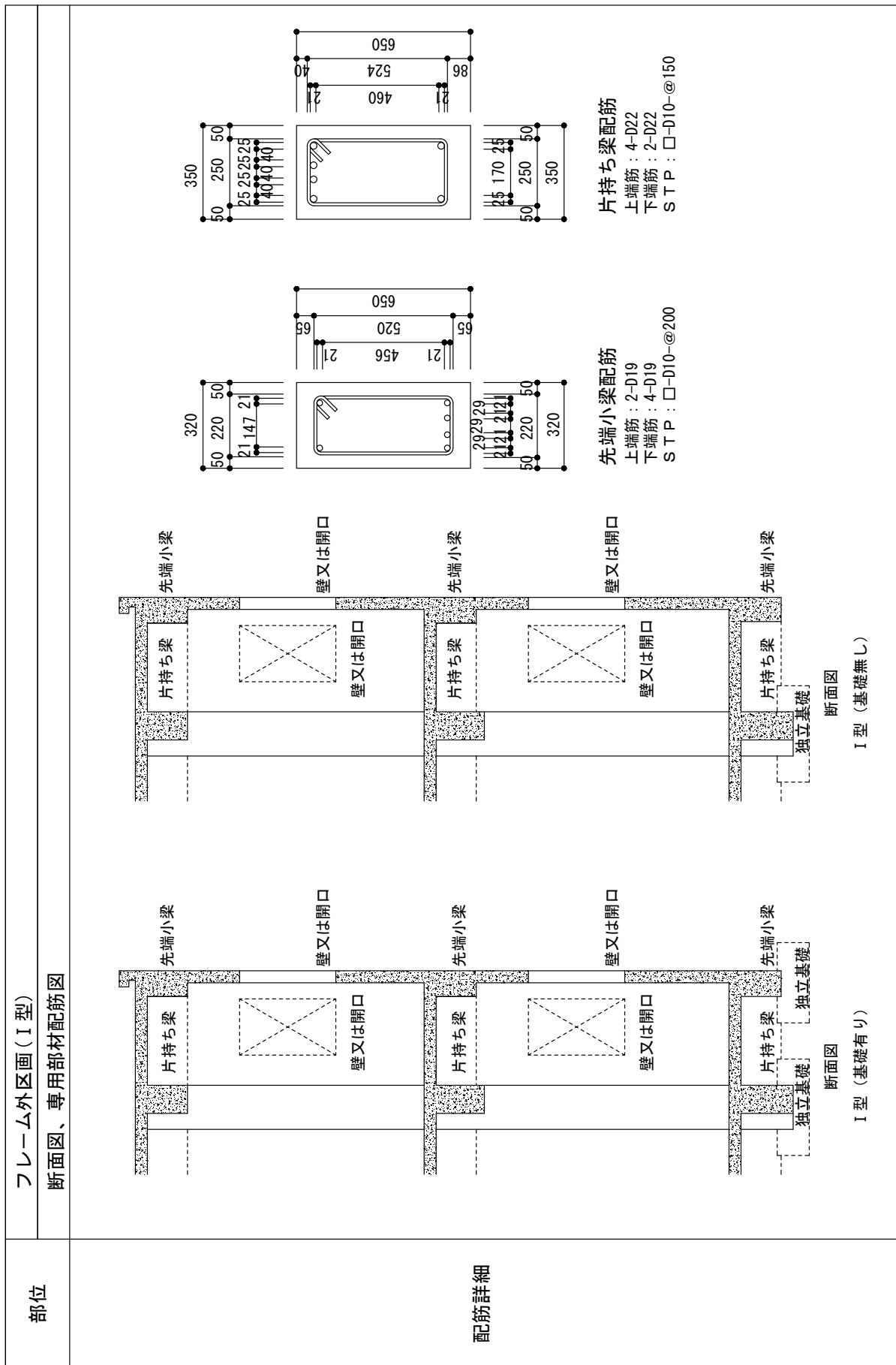


水槽は、下階柱心と水槽心を一致させるように配置する。

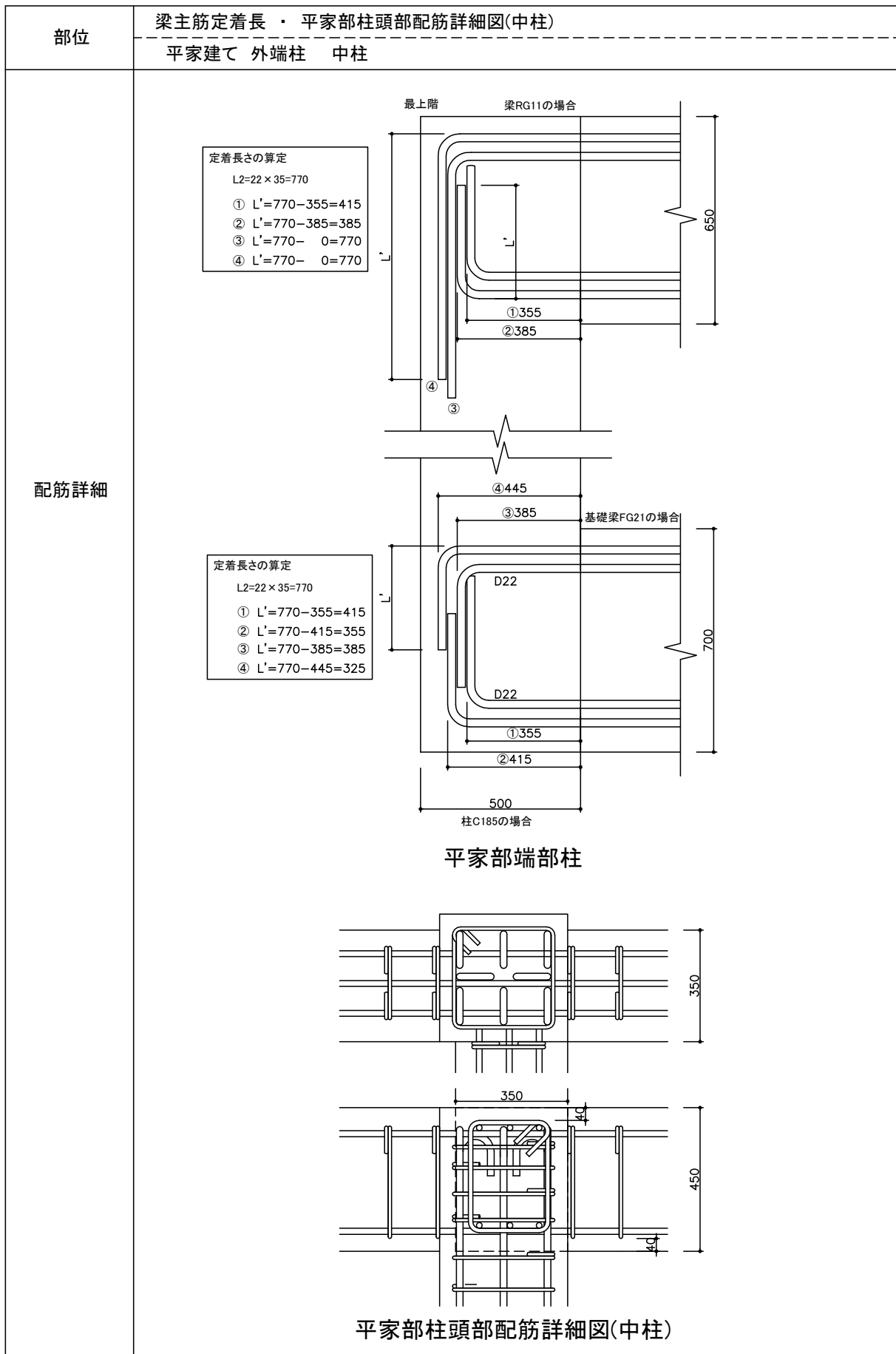


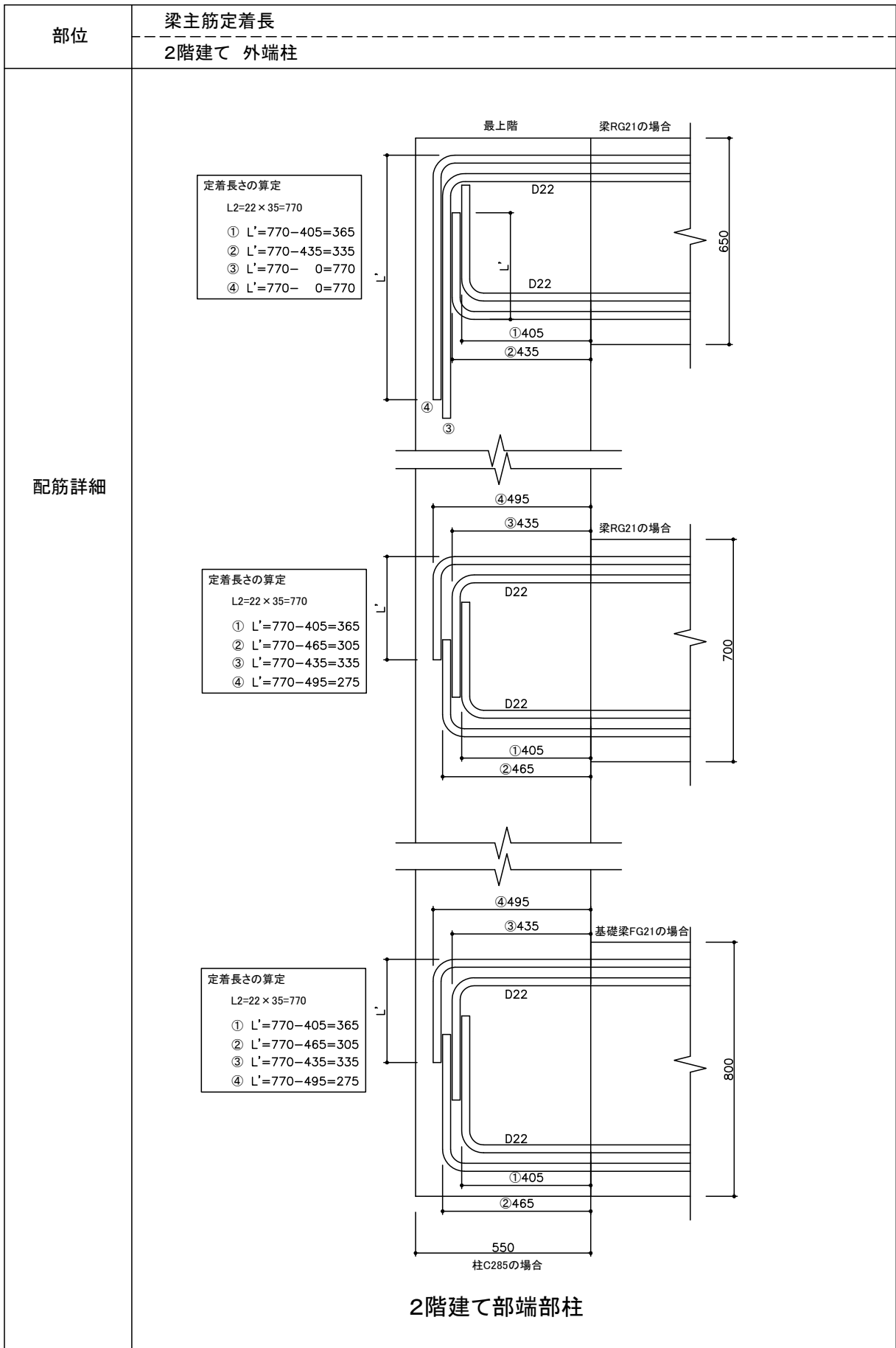
配筋詳細

(11) フレーム外区画詳細図



(12)各種配筋詳細図





部位	外端柱梁接合部の補強筋
配筋詳細	<p>柱HOOP @75の場合</p> <p>700</p> <p>350</p> <p>4Q</p> <p>60</p> <p>梁の側面かぶり(40以上)</p> <p>上階柱配筋</p> <p>柱HOOP @100の場合</p> <p>下階柱配筋</p>